

特集：FIDIC2011 ダボス大会報告

特集：FIDIC大会報告

Summary Report for FIDIC 2011 Annual Conference FIDIC 大会総括

日本工営株式会社 取締役社長
AJCE 会長 廣瀬典昭

1. プログラムの概要

FIDIC2011大会はスイスのDavosのCongress Centre, Davos, Switzerlandで、10月3日から5日までの3日間の日程で開催された。大会に先立ち、10月1日に各MAの事務局長会議が開かれ、2日には各会員協会(MA)会長会議とWelcome Receptionが開かれた。

今大会は当初は北アフリカのチュニスで開催される予定であったが、2010年末から2011年はじめにかけて起こったジャスミン革命とその後のエジプト、リビアなどの情勢を踏まえて、急遽開催地を変更することになり、短期間での準備が必要ということでDavosが選ばれた。そのため、大会運営は当初担当のチュニジアとFIDICとの協同運営という形となり、全体を通じてアフリカ色を打ち出したものとなっていた。参加者は全体で73カ国から約600名ほどであったが、そのうち大人数参加した国は中国約110名、ナイジェリアと韓国が約50名程度、カナダとインドが40名程度であった。日本からは、AJCE会員、家族、その他含めて34名が参加した。

今年度のテーマは「Local Resources-Global Perspectives」で、当初のアフリカ開催の流れを汲んで開発途上国、新興国、先進国間での格差の是正のための人材教育や人材活用といった面の議論が目についた。

Opening Ceremonyは、10月3日9時からCongress CentreのDavos Roomで開催された。開会の挨拶はまず、FIDIC会長のGregs Thomopoulos氏が2011年大会の趣旨について説明し、続いてチュニスコンサルタントエンジニア協会会長のNabil Chater氏が挨拶し、来賓としてDavos市のMichel市長の挨拶があった。さらに式のパフォーマンスとしてチュニジアの伝統舞踊と



女性の楽団の演奏が披露された。今大会では、人材活用やアフリカ問題に焦点を当て、我々の能力の合理的な活用、戦略的人材育成、コンサルタント産業の将来のリーダーの声などをメインテーマとして議論が行われた。開会式に引き続き、いくつかのグループに分けたセッションでは特定課題ごとに議論が行われた。

また、若年技術者のネットワークであるYoung Professionals ForumやMAの地域連合体であるASPACやGAMAの会合なども平行して開催され、活発な議論が行われた。特に今回のテーマに関連してYoung Professionalsの参加機会が多かったという印象を受けた。

最終日は総会の後、恒例のGala Dinner Partyが開催された。600名を収容する会場は郊外の体育館を利用して行われた。内部のデコレーションも余興もチュニジア色の強いものであったが、例年どおりの盛り上がりを見せていた。

2. 感想

ここ数年来課題になっている、技術者としての職業倫理や贈収賄に関する話題や議論が、この大会ではい

いゝな場面で目立っていた。外国公務員贈収賄防止法や英国の贈収賄禁止法など世界的に規制が厳しくなっており、国際市場でのビジネスでは避けて通れない課題になっていることが改めて認識させられた。日本国内でのコンプライアンスとは違った側面ではあるが、コンサルタントという職業倫理の観点からは共通の課題でもあり、コンサルタントビジネスに要求される厳しい現実を理解しておく必要性を感じた。

FIDIC2011 ダボス大会

開催期間：2011年10月3日～5日

会場：スイス ダボス

Congress Centre, Davos, Switzerland

参加者：73ヶ国 約600人（日本からは34名）

テーマ：Local Resources-Global Perspectives



プログラム：

Monday, 03 October

- 09.00 - 10.00 Opening Ceremony
- 10.30 - 12.00 Plenary Session I
Matching Needs
- 10.30 - 10.40 FIDIC Delhi 2010 Action Report
- 10.40 - 12.00 Matching Needs
- 13.30 - 15.30 MENA Session
A Special Focus on North Africa through the Eyes of Young and Senior Professionals from the Mediterranean
- 16.00 - 17.30 Seminar 1
Insuring Quality and Harmonising Best Practice Chair
- 16.00 - 17.30 Seminar 2
Financial Management and Good Governance
- 16.00 - 17.30 Seminar 3

Business Systems Matching Business Needs

Tuesday, 04 October

- 08.45 - 10.30 Plenary Session II
Developing Skills
Focus on Africa: Business Opportunities in Africa
- 11.00 - 12.30 Young Professionals 'Forum
Developing Skills: A Perspective from Young Professionals Organised by FIDIC Young Professionals
- 14.00 - 15.30 Workshop 1
FIDIC 's Role in Building Capacity in Member Firms
- 14.00 - 15.30 Workshop 2
Best Business Practice Tools (BPC will focus on QBS)
- 14.00 - 15.30 Workshop 3
Sustainability and Climate Change(FIDIC Strategy)
- 14.00 - 5.30 Workshop 4
FIDIC Contracts (Update on New Documents)
- 16.00 - 17.30 Future Leaders ' Workshop

Wednesday, 05 October

- 08.45 - 10.15 Plenary Session III
Enhancing Organisations
- 10.45 - 12.15 Seminar 5
Sustainable Engineering and Exporting Services
- 10.45 - 12.15 Seminar 6
What Does the Future Look Like -
- 10.45 - 12.15 Seminar 7
Innovation TF (Report from ITF)
- 13.15 - 14.00 Natural Disasters
- Manageable or Measurable -
- 14.00 - 15.30 Closing Plenary
Local Resources - Global Perspectives
- 16.00 - 17.00
FIDIC General Assembly Meeting
- 19.00 - 24.00 Gala Dinner at Färbi Sporthalle



FIDIC-2011 ダボス大会 AJCE 参加者

順不同 敬称略

番号	氏名	会社名	所属・役職
1	廣瀬 典昭	日本工営(株)	代表取締役社長
2	吉田 保	日本工営(株)	取締役常務執行役員
3	露崎 高康	日本工営(株)	コンサルタント海外事業本部 グローバル戦略室室内代理
4	林 幸伸	日本工営(株)	コンサルタント海外事業本部 契約管理室長
5	田中 弘	日本工営(株)	中央研究所 所長
6	高橋 秀	日本工営(株)	中央研究所 副所長
7	森原 百合	日本工営(株)	中央研究所自然環境グループ研究員
8	廣谷 彰彦	(株)オリエンタルコンサルタンツ	代表取締役会長
9	藤岡 和久	(株)オリエンタルコンサルタンツ	理事
10	石井 弓夫	(株)建設技術研究所	相談役
11	内村 好	(株)建設技術研究所	代表取締役副社長
12	金井 恵一	(株)建設技術研究所	執行役員
13	遠山 正人	(株)建設技術研究所	企画本部国際部長
14	河上 英二	(株)建設技術研究所	東京本社 営業部長
15	宮本 正史	(株)東京設計事務所	代表取締役副社長
16	狩谷 薫	(株)東京設計事務所	取締役
17	蔵重 俊夫	(株)日水コン	執行役員
18	春 公一郎	(株)日水コン	東部下水道事業 事業部長
19	赤坂 和俊	(株)日水コン	東部水道事業部東京水道部 担当課長
20	福島 大輔	(株)日水コン	海外事業部業務部業務課
21	武内 正博	八千代エンジニアリング(株)	国際事業本部 副本部長
22	竹村 陽一	賛助会員	
23	今井 学	(株)森村設計	環境部
24	田中 宏	田中宏技術士事務所	代表
25	山下 佳彦	AJCE	事務局長

参加者	25名
同伴者	9名
合計	34名

特集：FIDIC大会報告

Report on FIDIC Executive Committee Meeting
FIDIC 理事会報告株式会社オリエンタルコンサルタンツ 代表取締役会長
FIDIC 理事 前AJCE 会長 廣谷 彰彦

日 時：平成23年9月29日～30日
場 所：ダボス・スティゲンバーガー・ベルヴェデレ・
ホテル・ロータリールーム
議 長：Gregs Thomopoulos FIDIC 会長
参加人数：13人(会長、次期会長、理事7人、専務理
事、事務局員3人)

1. 会議議題の概要

1. MEETING AND MINUTES
 1. Welcome (GT)
 2. Davos activities
 3. Minutes ECM178 ? for discussion and approval (EV)
 4. Matters Arising (EV)
2. OPERATIONAL ISSUES
 1. Finance and Budgeting (AT, EV, FB)
 2. Human Resources (EV)
 3. Legal (EV/FB)
 4. Non-Membership Revenues (FB)
 5. Conferences (EV)
 6. Other (GT)
3. STRATEGIC PLANNING
 1. Business Plan 2010 - 2013 (ALL)
 2. Strategic Plan Update (GT/GF)
 3. Broadening Linkages (ALL)
 4. Communications/Marketing Plan (ALL)
 5. History of FIDIC (ALL)
 6. Strategic Partners (ALL)
 7. New Regional Training Strategy (FB)
4. INTERNAL ISSUES
 1. Member Associations
 2. Regional Groupings
 3. Committees
5. EXTERNAL ISSUES
 1. Membership (IG/BJ)
 2. Image
 3. Communications
 4. Other Organisations
6. OTHER BUSINESS
 1. Review (All)
 2. Future EC Meetings (GT)

2. 主要な議案から

会議は朝8時半～18時頃まで、昼食を一時間程度
取ながら続いたので、内容は非常に濃い。その中から、
特に今次理事会で話題に上がった案件を概括する。

財務状況：非常に良好に推移している報告があっ

た。ただし、FIDIC財務上の基本通貨をスイス・フ
ランにしているが、特に近年の値上がり大きい。
フランに換算するために、通貨を複数使用している
関係上、貯蓄の値下がりが帳簿上で大きい。決算に
はその影響から免れえず、損金が発生していること
になっている。今、貯蓄をSFに振り返ると、損失
を確定することになるため、動きが取れない。

その他の状況では、協会本質活動(MAの面倒見や、
会員支援、総会活動等)と、それら以外(本の発行、
セミナー、講師派遣、等)の活動のバランスが大きく
変化しており、その結果、MAからの会費収入が財
務の全体収入の約25%程度になってきたので、安定
して貯蓄が増加している。本来はNPOであるために、
税務当局への対応を慎重に進めている。

2012年度予算：ほとんど、変化無しで進める所存。

貯蓄の運用：運用を支援するエージェントに年間手
数料を支払ってアドバイスを受けているが、実際とし
ての運用には至っていない。

事務局強化：活動の内容が変化しており、事務局
員を強化している。

会費：新方式を提案することに、理事会として了
解した。(本件は、総会決議に挙げなかった。)

理事選挙：十分な候補者が出揃ったので、公正な
選挙が期待できる。(総会結果は、加、仏、スエーデン)

年次総会：ソウル、バルセロナ、リオ、等は順調。
次はアンマンが候補として挙がっている。

地域活動：アフリカ、アジア、欧州等は順調。中
南米から会員を増加したい。アラビアは、足踏み。

各委員会活動：PSM- が改定され、承認。FIMSも
改定済み。気候変動に関する意見書も承認。

アジュディケーター：今後、増員方向に努力する。ポ
ーランドの怪しい認定によるリストは、解消させた。日本
方式が良いモデル。APAを活用。

特集：FIDIC大会報告

2011 FIDIC General Assembly Meeting (GAM) in Davos
2011年 FIDIC 総会 (ダボス)

株式会社建設技術研究所 代表取締役副社長
AJCE 副会長 ASPAC 理事 内村 好

開催日時：2011年10月5日(水) 16:00 ~ 17:00

開催場所：Congress Centre Davos, Switzerland

出席国：73カ国出席(加盟数は87協会)

日本代表団：廣瀬会長、内村副会長、宮本副会長

FIDIC 総会 (General Assembly Meeting) は、毎年 FIDIC 年次総会の最後に開催され、事業計画・予算の決定、入会の承認、理事の選出、大会開催地の決定等を行う最高決定機関である。

議事概要

1 2010年活動報告

Thomopoulos 会長の挨拶に引き続き、10年デリー大会の総会の議事録、10 - 11年次報告書、10年会計報告・監査が滞りなく承認された。2011年の収入は4,786千SFr (約400百万円) で09年より38%の増収。支出は4,750千SFr (約400百万円) で収支均衡。大会関係の収入支出がどちらも増。 1SFr = 85円

2. 入退会の承認

新たに下記の2協会が正会員として承認された。

パレスチナ：Engineers Association (EA), Palestine

モザンビーク：Mozambican Association of Consulting Companies (AEMC), Mozambique

国連加盟が話題となっているパレスチナであるが、全

会一致で承認。イスラエルは欠席。

3. 2012年の予算、会費の承認

2012年の予算および各国協会の会費が承認された。収入は4,550千SFr、支出は4,540千SFrでいずれも2011年予算から微増である。2012年の会費基準(3.10Sfr/人)は変更なし。

4. Geoff French 会長就任

退任する Thomopoulos 会長(米国)の後任に Geoff French 氏(英国)が選任された。

5. 副会長の選任

副会長に Bueno Tomas 氏(スペイン)が選任された。

6. 理事の選挙

退任する米国、ウガンダ、NZの3理事の後任の選挙結果が示され、カナダ、スウェーデン、仏の候補者が当選した。3名が立候補したアフリカは票が割れて当選者がいなかった。

7. 2015年 FIDIC 大会開催地の選定

2015年 FIDIC 大会開催地については、アンマン(ヨルダン)が選定された。

今後の開催予定：2012年ソウル(韓国)、2013年バルセロナ(スペイン：FIDIC100周年)、2014年リオ・デ・ジャネイロ(ブラジル)、2015年アンマン(ヨルダン)

特集：FIDIC大会報告

ASPAC Events in Davos
ダボスにおける ASPAC 行事

株式会社建設技術研究所 代表取締役副社長
AJCE 副会長 ASPAC 理事 内村 好

1. ASPAC とは

ASPAC (FIDIC Associations in Asia-Pacific Region アジア大洋州地域協会会員連合) は FIDIC の地域連合組織

の一つで、アジア太平洋地域に属する FIDIC 加盟 20 協会から構成される。

ASPAC のこれまでの主な活動は、域内の協会の情報

交換やセミナーの開催、共通する課題のFIDICへの提言などである。09年までの3年間AJCEの廣谷会長(当時)がASPAC議長を務め、この間にニュースレターの発刊、HPの開設、セミナーの開催など活動が活性化した。09年9月のFIDICロンドン大会で、豪州のDennis Sheehan氏が議長に就任し、定款等の整備を行った。

ASPACの理事会や総会は域内でFIDIC大会が開催される場合にはその際に、域外で開催の場合には別途開催することとされている。2011年3月にはマレーシアでTCDPAP/FIDIC・ASPAC会議が開催され、震災状況の報告を行った。

ASPAC活動について、国連のESCAPの一環で発足した技術開発プログラムであるTCDPAP(Technical Consultancy Development Programme for Asia and the Pacific:事務局はインドのCDC)との連携および競合が課題となっている。

Australia Azerbaijan Bangladesh China China-Hong-Kong China-Taipei India Indonesia Iran Japan Korea Malaysia Nepal New Zealand Pakistan Philippines Singapore Sri Lanka Vietnam Uzbekistan (Myanmar)

注)アンダーラインはTCDPAP加盟国、()はTCDPAPのみ加盟

2. ASPAC 理事会

2011FIDICダボス大会の際、10月2日(日)15時~17

時に8名の理事のうち豪、韓、台、インド、イラン、日本6名の理事が出席して、ASPAC理事会が開催された。若手技術者の育成、FIDIC約款の活用、ASPAC事務局、などFIDICやASPACの抱える課題についてディスカッションが行われた。

3. ASPAC 総会、ネットワークランチ

3.1 総会概要

開催日時: 2011年10月4日(火)12:30~14:00

開催場所: Congress Centre Davos, Switzerland

出席国: 加盟20協会中17カ国出席

日本代表団: 廣瀬会長、蔵重理事

3.2 議事概要

前回ニューデリー大会での総会の議事録を確認した後、ニューデリー大会以降のマレーシアでのTCDPAP/ASPAP大会や各国でのFIDICセミナーなどASAPC活動報告がシーハン議長からなされた。退任するイランとインドの理事の後任にインド(再選)と中国が選出された。また、来年のソウル大会で退任するシーハン議長(豪州)の後任として韓国のKang理事が次期議長に選出された。

3.3 特別講演

アジア開発銀行(ADB)のYinguo Huang理事の‘ADB opportunities for consultants’と題する講演が行われた。

特集: FIDIC大会報告

Plenary Session FIDIC 2010 Action Plan Report and Matching Needs 全体会議 FIDIC 2010 活動報告とニーズへの適応

株式会社東京設計事務所 代表取締役副社長
AJCE 副会長 宮本正史

日時: 10月3日(月) 11:00~12:30

場所: Plenary Hall

議長: Gregs Thomopulos, USA, FIDIC President

報告者: Baroness Lynda Chalker, UK, Pasco Risk Management, Former Minister of State at the Foreign & Commonwealth Office Michele Kruger, South Africa CSV Water John Boyd, Canada, Former FIDIC President

Jorge Diaz Padilla, Mexico, Former FIDIC President

Rick Kell, Australia, Former FIDIC President

1. 会議の概要

当初のプログラムでは、Thomopulos会長の活動報告に続き、チュニジア協会のChater会長が議長となり、チュニジア大臣、アフリカ開銀の代表、中国開銀の代表の発表が予定されていた。これらの発表者が不参加とな



写真 発表風景、左から Kell 氏、Padila 氏、Boyd 氏、Kruger 氏、Chalker 氏

り、過去の FIDIC 会長 3 名を含む上記 5 名の報告者に
変更となった。

会議は開会式が長引いたことにより 30 分ほど遅れて
開始された。Thomopoulos 会長は 2010 年デリー大会以
後の FIDIC の活動状況を 15 の課題に整理して報告さ
れた。5 名の報告者はそれぞれの立場、あるいは御自
身の経験などから、今後 FIDIC やコンサルティングエ
ンジニア(CE)の課題や取り組みについて意見を開陳
された。

2. 2010 年活動報告

Thomopoulos 会長から、ニューデリー大会で明らか
にされた 15 の課題の現状について、概要が以下のよう
に報告された。(1)Sustainability についての 2 つの文書
を作成した。指針は完成し、この大会で発表される。全
体的な文書は現在作業中で来年の大会で発表予定である。
(2)Climate Change については現在進行中である。(3)
Capacity Building について新たな図書を作る予定であ
る。(4)Small and Medium Size Firms とのネットワークの構築、
(5)Integrity Management System、(6)Procurement System、(7)
NGO との連携、(8)QBS、(9)Contract Documents、(10)YP
の Workshop、(11)FIDIC Code of Practice、Integrity
Management Manual、(12)Advocate Issues についての
Policy Statement についても進展があった。ただし、(13)
Women in CE Industry については進展がなく、(14)
FIDIC Master's Degree は優先度が低いと考えられた。
(15)については不明。

3. ニーズへの適応についての 5 名の報告者の発表

3.1 Baroness Lynda Chalker 氏

彼女は 30 年以上にわたり英国上下院の議員を務めて
いる。1989 年～ 1997 年は外務大臣(Minister of State
at the Foreign & Commonwealth Office)であり、アフリカお

よび英連邦諸国と海外開発を管轄した。このような経験
から途上国、特にアフリカ諸国における開発についてな
にが求められているかを発表された。事業の実施に当
たりリスクの特定と評価が重要であること、開発途上国
での能力開発(Capacity Building)が重要であることを
強調された。彼女の発表の中には、CE は必ずしも的確
な判断をしていない、といったような発言もあった。また、
アフリカの現状についても余り明るい見通しを持たれて
いないようであった。

3.2 Michele Kruger 氏

彼女は南アフリカ出身で、ヨハネスブルグ大学から土
工学の学士、修士、博士を取得しており、修士と博士
の専門は水処理である。FIDIC の YPF(Young
Professional Forum)の議長を務めている。彼女は若手
技術者らしく、アフリカの現状について開発の余地は多
く残されており、CE 活躍の場が多くの分野にあることを
訴えた。すなわち、衛生、運輸、通信、農業、鉱山その
他の分野である。これら開発には人材開発が重要であ
ることも強調された。また、持続性を担保すべくグリーン
・アフリカを目指すべきであると締めくくられた。

3.3 John Boyd 氏

Boyd 氏以下の 3 名はいずれも FIDIC 会長経験者であ
り、それぞれの FIDIC 活動を通じて得られた意見を発
表された。Boyd 氏は Sustainable Development に対す
る FIDIC の取り組みを説明された。すなわち、最初は
1992 年の Sustainable Development の文書であり、続いて
2004 年の Guidelines の発行となった。現在 PSM2 が作
成中であり、近々完成する。Climate Change について
の Policy Statement が発表されており、これをそれぞれ
の国の事業に反映させることが重要である。また、価格
競争は Innovation を阻害するので避けなければならない。

3.4 Jorge Diaz Padilla 氏

Padilla 氏はニューデリー大会からの課題として、汚職の問題を公表された。FIDIC は 15 年前からこの問題に取り組んできている。今では Integrity Management System (IMS) の一環として Corruption (汚職) の問題が扱われている。Integrity についての FIDIC の原則を各国、各企業が適用していくことが重要である。IMS は企業にとって多くの利益をもたらす。しかし、汚職はまだまだ世にはびこっている。

3.5 Richard Kell 氏

Richard Kell 氏はニューデリー大会以降の 15 の課題のうち、優先課題として以下の 3 点を指摘された。すなわち、(1) Capacity Building、(2) 中近東、アフリカ問題、(3) 企業の協力である。(1) について、FIDIC は様々なレ - ニング・プログラム、特に契約関係に関して提供できる。(2) について、これらの地域の国で和平が実現されれば、CE が必要とされるであろうこと。(3) について、自然災害の場合などはこれが特に必要となることを強調された。

4 . 意見交換、質疑応答

発表の後、若干の意見交換、質疑応答が行われた。

コンサルタント・サービスの調達には QBS が重要であり、これは我々の業界の継続性にも係るとの意見が述べられた。チュニジアで予定されていた今回の大会に開催場所変更に関し、FIDIC は経済危機に直接関与するののかとの質問には、これらの問題に関して FIDIC は関与しないとの回答があった。Chalker 氏に対してはかなり厳しい質問があり、言うは易く実行は難しいとの回答があった。また、Thomopoulos 氏からもこれまで FIDIC はいくつかの国の首相と会談をした等との報告があった。FIDIC はもっと政治家を熱心に招待すべきである、汚職に対しては一緒に協力すべきである、等の意見が出された。

5 . 所感

報告者が急遽変更されたせいであろうか、5 氏の発表はそれぞれが思うところを述べたといった感じで、テーマの統一性が感じられなかった。Chalker 氏が唯一 FIDIC 外部の方であり、CE に対しても厳しい見方をされている方のように受け取られた。ただ、彼女の発表を通じて、なにを強調されているのか、分かりにくいところがあった。

特集：FIDIC大会報告

MENA Session A Special Focus on North Africa through the Eyes of Young and Senior Professionals from the Mediterranean Rim MENA セッション 環地中海地域の幅広い世代のプロフェッショナルからみた北アフリカ社会の考察

株式会社日水コン 執行役員 事業統括本部副本部長
AJCE 理事 国際活動委員会委員長 蔵重俊夫

日 時：2011 年 10 月 3 日 (月) 13:30 - 15:30

場 所：Room Davis

議 長：Gregs Thomopulous FIDIC 会長

報告者：M.EL Saidy, S.M.Saaid, M.Zianni, K.Hidar,
A.Bentejac

1 . プログラムの概要

MENA という “ Middle East and North Africa ” の地域を対象としたエンジニアリング業界の発展に向け、ローカル企業とグローバル企業の連携など、様々な課題が提起された。



2 . M.EL Saidy 氏の発表(エジプト、カイロ大学)

アラブの春の影響について、新たな政府が仕事を提供し、雇用や国民の要求に応えるかどうかを最初の課題として指摘した。次いで、ローカル企業にとっての問

題点として、環境問題への造詣を深めること、安全対策にもコストを惜しまないことを示し、品質問題として、単に“技術”のみでなく、文書管理や記録の保管などの面も課題とした。また、人的資源管理の問題、ローカル企業とグローバル企業のより良い連携を次なる課題とし、FIDIC加盟国間でのコミュニケーションを推進することが重要と結んだ。

3. S.M.Saaid 氏の発表(**スーダン、Newtech Consulting Group の橋梁部門技師長**)

同国の調達システムに関しては、例えば、橋梁建設のDBで橋のタイプも指定されないまま公示されるなど、不適切で困惑するような入札が行われている。技術者教育に関して、標準的モデルがなく、コンサルタントの役割もコントラクターとの境界が不明なままであり、特に若手の育成が重要と結論した。

4. M.Zianni 氏の発表(**モロッコ、モロッコ協会長**)

モロッコCE業界の歴史として、フランス企業による業界の創生期からローカル企業の台頭、そして財政の悪化により、今日ではローカル・グローバルを交えた競争の激化が起こってきた過程を示し、そのため、ローカルの多くは国外進出するようになったと解説した。また、MENA内での連携も模索されるようになり、GAMA (Group of African MA)、MEG(Mediterranean Eng. Group)、FCAA(Federation of African & Arab Consultants)などの地域連合活動の活性化が期待されるとの説明がなされた。

5. K.Hidar 氏の発表(**チュニジア、同国最初のCE企業 Accelea 社の創立者**)

MENA地域の歴史的発展について古代エジプトからひもといた解説があり、同地域のエネルギー資源優位性と豊富な人的資源が地域発展の源と指摘した。そして、今後の発展には、MENAの経済的融合、欧米諸国の投資促進、欧州・MENAのパートナーシップが鍵となる点を指摘した。

6. A.Benteja(**フランス、仏の Syntech 社の社長のかわら、ローカル企業である Artelia 社のCEO**)

北アフリカは人口増、都市化によりインフラ整備の需要が大きく、大きなビジネスチャンスである。こうした潜在的市場を現実の市場にするには、企業間の協働、協会間の協働、シナジー効果の創造、FIDICの役割の拡大が重要。このうち、シナジー効果は、持続的発展のしくみ、地中海沿岸地域の結束、知識伝搬の推進、第3諸国での協調的行動、能力開発などが発端となる。FIDICに対しては、YPプログラムの強化、協会強化、FIDIC約款の活用拡大、CE業界イメージアップが重要と述べた。

7. **議長総括**

議長により、MENAの課題が、潜在市場開拓、人的資源活用、適切なCE選定、妥当な報酬制度確立、ローカル企業の参入促進、連携促進、能力開発と総括され、セッションが終了した。

特集：FIDIC大会報告

**Seminar 1 Ensuring Quality and Harmonising Best Practice
セミナー1 品質を保証することと最良の業務を実行することの調和**

株式会社建設技術研究所 東京本社 営業部長
国際活動委員会 QBS 分科会長 河上英二

日 時：2011年10月3日(月) 16:00 ~ 17:30

場 所：Room Wisshorn

議 長：Adam Thornton, New Zealand

報告者：Bernard Becq, USA The World Bank

Abdelmalek Sellami, Tunisia Ministry of
Agriculture and environment Nuruddeen

(代理 Emeka Ezeh), Nigeria Bureau of Public
Procurement

参加人数：約50人

1. プログラムの概要

コンサルティングエンジニア(CE)には Best Practice が求められ、FIDICもそれを目指している。また、優れ

たCEを雇用するためにはその調達方法、特に後にワークショップで議論されるCEの選定の問題も深く関わってくる。このセッションでは、まず3人のスピーカーによる表題(Quality, Best Practice, Procurement)に関するプレゼンテーションが行われた後、質疑応答も兼ねた議論が行われた。質問や議論は主にWBに集中した。

2. 報告の概要

(1) 国際融資機関の展望

世界銀行(WB)をはじめ、アジア開発銀行(ADB)、欧州復興開発銀行(EBRD)など世界の融資銀行では、コンサルタントの選定に関するガイドラインやポリシーの調和(統一化)を目指している。そのひとつとして、提案依頼書(Request For Proposal: RFP)や契約様式の標準化も行った。簡便にすること、わかりやすくすることを目的に、

- ・ 評価項目や基準を統一すること
- ・ 技術提案や価格提案の様式、契約様式を統一すること

また情報公開を促進し、透明性を高める方針。そのために機関内部では調達システムや投資の評価基準、業務内容や要求事項の見直しを行う。ただし現在の課題として、提案や交渉事項の履行性、技術者の頻繁な交代、品質の低下が説明された。

(2) チュニジアの水需要と管理について

- a. 水事情: 近年降雨量の減少で、水不足となってい

る。また、必要な水の量は同じでも、地域によって降雨量が大きく異なることが問題である。特に農作物への影響は深刻。また、これに見合う供給量不足も問題であり、他産業の復興によって一層厳しい状況にある。

- b. 戦略: 産業も含めた全ての水需要を満足させること、地域へのバランスの取れた水供給を目指して、ダムや集水施設の整備、地下水の使用管理や復水、再生水の利用などを実施中。次第に整備が進み改善がされてきたが、あわせて効率性や維持管理、運用などのマニュアル作成や教育も実施する。

(3) ナイジェリアのコンサルタントの選定

ナイジェリアでは公共調達法の施行にともなって、調達方法の改正を行っている。アフリカのコンサルタント選定の手順は、もともとWBが主導で作成したもので、特にナイジェリアではWBの調達ガイドラインをモデルとしている。競争性や経済性、VFM、効率性、透明性に主眼を置いている。品質には閾値を設け、一般的には品質・技術による選定(QBS)は\$25万未満、品質・技術と価格による選定(QCBS)は\$25万以上としている。また、人材(関与する人たちの能力や公正性の差)、プロセス(理解不足、政治干渉など)、技術やシステム(最新のソフトやハード、適切な使用環境)などの改良にも取り組んでいる。

特集: FIDIC大会報告

Seminar 2 Financial Management and Good Governance セミナー2 財務管理と優れたガバナンス

株式会社建設技術研究所 執行役員経営企画部長
技術研修委員会副委員長 金井 恵一

日 時: 10月3日(月) 16時~17時30分

場 所: Room Seehorn

議 長: Jose Diaz-Padilla (Mexico)

参加人数: 約100名

大会初日の午後開催された「セミナー2」は、過去にFIDIC会長を務めたメキシコのDiaz-Padilla氏を議長

として、ベルギー最大の建設会社Besix Groupの財務・契約・保険分野のシニアアドバイザー、van Cutsem氏、欧州第3位の国際コンサルタント企業であるデンマークのRamboll社のCEO、Pedersen氏、ベルギーのエネルギー関連コンサルタント大手のTractebel社の倫理担当オフィサー、Gilliot氏の3名によるプレゼンテーション

が行われた。

van Cutsem氏は、まず、北アフリカ諸国で中間層の誕生による個人消費の増大、百万都市の出現、合計のGDPがロシア、ブラジルと同等になってきている点などを挙げ、こうした発展に伴って、現在投入されている800億ドルに加え、さらに500億ドルがパワー、水、交通などに投資される見通しを述べた。留意すべきリスクとしては、金融組成の困難さ、支払遅延、発注側の特異な意思決定プロセス、政治的不安定などを指摘した。中東では、Besix社の最大市場であるUAEにおいて、ドバイからアブダビへのパワーシフトが起きていることに伴い、同社の主戦場も移行していることを述べた上で、今後の中東の発展に向けて、やはりインフラ投資の重要性を主張した。留意点としては、政治的不安定要因の存在、しっかりした契約締結の必要性、よいパートナー(地元企業)の選定、倫理問題などを指摘した。

Pedersen氏は、今年2月、デンマークの有力紙にRamboll社が「奴隷制度に加担している」と報道されたことを例に取って、国連のGlobal Compactを厳密に遵守することの重要性を訴えた。新聞報道の内容は、ドバイでのプロジェクトにおいて、建設会社2社が出稼ぎ労働者を奴隷同様の過酷な労働環境に置いており、そのプロジェクトのコンサルタントであるRamboll社を「共謀者」として指弾するものであった。実際には、Ramboll社と建設会社2社との間には何らの契約関係もなく、「奴隷制度に加担した」というのは言い過ぎであるが、Pedersen氏は、コンサルタントとして劣悪な労働環境に対して何ら積極的なアクションを起こさなかった(或いは無関心であった)ことが国連のGlobal Compact第2条に規定された「人権侵害の共犯者にならない」ことに抵触した



と解釈して、自社のポリシー、システムの改善・強化を実施した。すなわち、それまで贈収賄に重きを置いていた倫理遵守規程のスコープを人権、労働権、環境などにも拡大し、Global Compactの遵守を徹底することとしたのである。これはコンサルタント共通の課題であり、業界としてこの問題に真剣に取り組むべきであると主張した。

Gillot氏は、Tractebel社(グループ)の倫理徹底の考え方、システムについて紹介した。この中で、同社グループでは、毎年、傘下子会社の社長がグループCEOに対して倫理遵守の誓約書を提出していること、13人のメンバーからなるグループ倫理委員会が設置されていること、毎年リスクの特定が行われ、トレーニングが実施されること、などが説明された。また、「外部調達」「贈答、会食招待」「守秘義務」「利益相反」など18項目におよぶ倫理チェックポイントによって、日々の業務活動における行動判断の基準を設定していることが報告された。

全体としてGovernanceに重点が置かれ、Financial Managementに関する話題は少なかった。その中で、Pedersen氏の指摘した国連Global Compact第2条への抵触(人権侵害の共犯)に関する指摘は、国際業務に従事するコンサルタントの直面する新しい課題として、留意すべき点であると感じた。

特集：FIDIC大会報告

Plenary Session Developing Skills Focus on Africa:
 Business Opportunities in Africa
**全体会議 技術力の向上 アフリカに焦点を当て：
 アフリカにおけるビジネスの機会**

賛助会員
 技術研修委員会名誉副委員長 竹村陽一

日 時：2011年10月4日(火) 8:45 - 10:30
 場 所：Room Davos
 議 長：Baroness Lynda Chalker, Chairperson of
 Africa Matters, UK
 講演者：Trevor Manuel, Minister in the Presidency,
 South Africa, Hassen Chourabi,
 Chief engineer and Director at the Ministry of
 Agriculture and Environment of Tunisia,
 Tunisia

1. プログラムの概要

当初のプログラムから変更があり、講演者の内、南アフリカのマニユエル大臣は公務のため欠席となり、講演原稿がスクリーンに写され、議長チョーカー女史と電話会話が行われ、フロアとの質疑応答もあった。議題はアフリカ(特にサハラ以南の諸国)におけるインフラ不足の現状、経済成長への障害、インフラ整備に必要とする膨大な資金についてであり、FIDICが代表する世界のコンサルタントからの方策提案を期待するものであった。

議長チョーカー女史は英国議会で35年以上の議員歴とアフリカおよびコモンウェルス開発担当大臣を務め、現在もアフリカの主要国でコーディネーターを勤めるなど活躍中の様子である。

南アフリカのマニユエル大臣は1996 - 2009に財務大臣を務め、2009年5月、Jacob Zuma大統領の就任直後に国家計画委員会担当大臣に任命された。

このように、アフリカを熟知した専門家同士であったので、講演の内容はポイントを得たものと感じられた。マニユエル大臣はインフラの内でも重点分野として、電力、水、道路そして情報通信の4分野を挙げ、また有望なビジネス部門として、インフラ関連、農産物関連、天然資

源関連および生活用品関連を挙げている。

この後、チュニジア農業・環境省の局長兼主任技術者であるチュラビ氏が、「持続可能な開発を達成するプロジェクトを実現するための参加型アプローチ」(Adoption of Participatory approach in realization of projects to achieve Sustainable Development)と題する講演を行った。

この手法はプロジェクトの初期段階からプロジェクトの住民を主体とし、各種の専門家を参加させ、参加型のプロジェクト形成から実施までを行うもので、その方法論はチュニジア国のローカル特性を反映させたものであるが、全体の枠組みづくりは先進的なものと感じられ、興味深いものがあった。

2. 日本としての対応

アフリカは「ヨーロッパの庭」と考えられてきた時代が長かったが、マッキンゼーは“Lions on the Move”という報告書で、アフリカのどの国にも成長に関するリスクはあるものの、現在のアフリカは成長へ向けて動き出していると観測しているといわれる。そして、アフリカ自身も、グローバル化の時代に世界におけるアフリカの再位置付けを行おうとしていると云われる。

アフリカが今必要としているものは、大会で随所に出てきたが、インフラ整備と維持管理である。それには膨大な資金と人材を必要とする。日本もODAを約束し、民間企業も進出を始めているが、ここはやはりコンサルタントの力を差し延べるべきだと考える。国内にだけに閉じこもらないで、若い世代の日本人がアフリカの開発に積極的に参加する気運が生まれて欲しい。政府もこれを積極的に支援する体勢をとって欲しい。日本の将来にかかわる大事であると思われる。

特集：FIDIC大会報告

Young Professional's Forum 若手技術者による公開討論会

株式会社森村設計 環境部
技術研修委員会 YP 分科会 今井 学

日 時：2011年10月4日(月) 11:00 ~ 12:30
場 所：Room Davos, the Davos Congress Center
議 長：Michele Kruger (South Africa)
報 告 者：Selena Wilson (Canada), Andrew Steeves
(Canada), Manoochehr Azizi (Iran),
Richard Stump (USA), 今井学 (日本)

参加人数：約200人

1. プログラムの概要

技術者不足はすでに幾つもの国々で深刻な問題になっているが、技術者の育成は長い時間を要するものである。そのような背景を踏まえ、5名の若手技術者(Andrew Steeves はシニアの立場から発表)が技術者の育成方法についての現状・考え・取り組みなどについて発表。各概要は以下の通り。

(1) Young Professional Groups: Helping Shape the future of Consulting

発表者：Selena Wilson (Canada)

若手技術者グループが行っている活動を紹介すると共に知識、指導力、ネットワークなどを広げる機会の提供によって得られるメリットを紹介。更にこのメリットとは、若手技術者のみに与えられるものではなく業界にとっても大きなメリットになる事を説明。

(2) If I knew Then What I Know Now

発表者：Andrew Steeves (Canada)

若手技術者が技術を向上するために開かれている様々なキャリア・パスをマーケティング、ビジネスマネージメントの2分野に絞り込んで紹介。自身の経験を基に、様々なキャリア・パスへの助言と成功を収めるために必要な能力について説明。

(3) What YPs would like to see in a company

発表者：Manoochehr Azizi

若手技術者グループが行った調査を基に、若手技術者が企業で働く上でどのような要素(昇進機会、困難など)を重要視しているかについて報告。その中でも若手技術者が企業に期待していたものと実情との違いによって生じる不満点を強調して説明。

(4) Integrity management

発表者：Richard Stump

誠実な経営の目的と若手技術者に対して、その重要性について説明。また誠実性向上の筋道を描き、なぜそのことが業界全体にとって重要なのかについて説明。

(5) Several cases of skills development for young professionals in Japan

発表者：今井 学

従来の若手技術者の育成方法が抱える問題点を改善するために行っている各社取り組みを紹介するとともに、望ましい育成方法を提案。また日本の若手技術者グループが、若手技術者の育成を後押しするために行っている取り組みについて紹介。



2. 所感

討論会では幅広い意見が発表されたが、「人脈形成の重要性」は共通して挙げられた。各国若手技術者グループの連携した今後の活動が、業界全体へのさらなる貢献につながるものと考えられる。

特集：FIDIC大会報告

Workshop 1 FIDIC's Role in Building Capacity in Member Firms
ワークショップ1 会員企業の能力開発に対するFIDICの役割株式会社日水コン 海外事業部 業務部
福島大輔

日 時：2011年10月4日(火) 14:00 ~ 15:30
場 所：Room Davos
報 告 者：Henning Therkelseon(Denmark), Felix Fongoqa
(South Africa), Exaud Mushi(Tanzania), Javad
Haddad(Iran)

参加人数：約200名

1. プログラムの概要

FIDICは、メンバーの能力開発に関して何をすべきか意見が欲しいとの主旨説明があり、その後、4人の報告があった。

1) Henning Therkelseon / Italo Goyzueta :「コンサルティングエンジニア(CE)のCapacity Building(CB)をどのように進めるべきか」。Capacity Building Committee(CBC)ではそのCB手法に関する作業内容を以下のように取りまとめた。主項目は以下。1. Guide to Practice(G2P)見直し、2. FIDICメンバー間の国際的パートナーシップの促進、3. FIDIC内での教育プログラムの構築等々。その後、既に作成されているトレーニングキットの紹介と、FIDICメンバーに実施したCBに関するアンケート調査の結果報告を行った。その回答率は20%、既に作成されているトレーニングキットは概ね評価されており、今後は新しい能力開発トレーニングキットの作成が期待されている。ただしその作成には、メンバーからの要望・意見徴収が必要であり、今後ヒアリングを行うとのことであった。

2) Felix Fongoqa :「BBBEE :南アフリカのCBモデルの紹介」。BBBEEとは南アフリカの公共セクターの調達政策に沿った法令であり、一種の企業監査・評価制度。その採点項目で最も配点が高いのは、企業及び

個人の能力開発となっている。個人の能力開発は、すべての社員、とりわけ黒人労働者の能力開発への投資評価が重要視されており、企業の能力開発はその開発計画をたて、進捗をはかるものとされている。これらの目標は数値化・可視化されている。

3) Exaud Mushi :「国際コンサルと国内コンサルのWin-Winたる連携とは」。国際コンサルとの業務提携は、国内コンサルにとっては技術移転、プロジェクトマネジメントスキルの移転、国際コンサルにとっては新市場への参入を主目的とされるものである。ただし問題点として、国際コンサルには、国内コンサルをサポートスタッフのように扱い、経歴書はお手盛りで経歴貸しだけのような者、技術・財政情報等のチーム内の透明性確保が欠落している者がいる。今後は、国際コンサルはその求められた技術そのもの、及び付加価値をも提供できるエンジニアの派遣が必要となる。

4) Javad Haddad :「Management Developmentに関する教育訓練キットの紹介」。コンサルタント業界では、能力開発とはただの教育ではなく、エンジニアの「キャラクタービルディング」である。そのためにFIDICからは、2003年に改正された「Guide To Practice(G2P)」がある。また、FIDICではCBトレーニングを行っており、イランにおけるG2Pトレーニングでは、ディスカッションを重視し、2チーム制で実施した。事後のアンケートでは概ね高評価を得た。

2. 質疑応答・ワークショップ

国際コンサルと国内コンサルの提携時の問題点の発言が活発であった。最終的に結論として、CEは大小、国際・国内関わらず、その知識の共有が必要だ、という議長のまとめの言葉で幕を閉じた。

特集：FIDIC大会報告

Workshop 2 Best Business Practice Tool (BPC will focus on QBS)
ワークショップ2 最適な業務実務ツール (QBS に焦点を当てて)株式会社東京設計事務所 取締役東京支社長
国際活動委員会 FP 分科会長 会員委員会 FIDIC 理事会準備委員会 狩谷 薫

日 時：2011年10月4日(火) 14:00 - 15:30

場 所：Room Wisshorn, Congress Centre Davos

座 長：Rick Prentice (カナダ)

発表者：Rick Prentice (カナダ), Fatma Colasan (トル
コ), David Raymond (アメリカ)

参加者：60人程度

1. ワークショップの概要

FIDIC Business Practice Committee (BPC)のワークショップである。今回は一般的には品質・技術による選定 (QBS)ガイドの改訂が完了したことから、これを中心に説明が行われた。BPCの現状の活動 (Project)概要、QBSガイドの概要、米国のQBSの実態の順に報告された。最後にQBSの普及促進をテーマに討議が行われた。

2. ワークショップの内容

前半は委員長で座長のRick Prentice氏より活動概要、BPC委員でQBSタスクフォースリーダーのFatma氏よりQBSガイドの概要説明等、更にMr. David Raymond氏より米国のQBSの状況の説明があった。

> Guide To Practice (G2P)の第5章をQBS等に関するアップデートを含め、改訂中である。今後、Capacity Building Committee (CBC), Contract Committee (CC)及びヨーロッパコンサルティングエンジニア協会連合 (EFCA)等から意見を聴取し、ファイナライズを図ることとしている。

- ・ Disaster Management に関して、コンサルティングエンジニア (CE)は被害防止、対策準備、状況把握、復旧等に中心的役割を果たしうるという観点から、BPCでは緊急行動を含めてガイド文書を作成の予定である。
- ・ Definition of Services (DOS)はClientとCEの調整・意思疎通の観点から最良の実務ツールである。建築編は発表済みで、土木編は現在準備中だが、利用レベルや興味に関して意見を収集予定。

・ Design for Safety に関しては、危険・配慮点・責任の観点から、TFで初期の検討を行っている。

・ Business Cycleの検討に関しては、好景気での健全経営、業務開発の初期段階参加のための技量向上が重要という認識のもと、委員会での議論・骨組み作りを行っている。

・ Client Awardは賢く効率的なコンサルタント選定と管理を認識・促進する目的で検討中。

・ 強い業界、より良いプロジェクトの成果、優秀な人材の確保、継続的な能力開発、顧客満足度のより一層の確保のための最低限の条件であるという認識で、FIDICはQBSを推奨する。

・ QBSガイドは、QBSの合理性の普及、説明資料の提供、プロジェクトの効果・効率性の改善、価値の最大化、現状の好ましくない選定の変更等の目的で作成された。ターゲット、及び主要な要点として、価格交渉のあり方、専門サービスの供給と役務・物品提供の違いの明確化等が説明された。

・ ガイドとの用語の整合性及び価格交渉を含んで、Selection Bookが改訂されたことの説明があった。

・ QBSのQはQualification、QBSによる成果と低価格入札での失敗事例、QBSの実施方法、成功のためのCEのQualification、将来的なQBSの状況等に関して、米国の事例が紹介された。

その後、会場を5つのグループに分け、コンサルタントの中でQBSの普及、顧客へのQBSの普及、FIDIC及び会員協会 (MA)のQBS普及促進のための次のステップというテーマで討議が行われ、ロビーイング、説明会、FIDICによる各国でのセミナー開催、MA内でのセミナー等の各種意見が交換された。

3. 今後のAJCEの対応

QBSガイドに関しては、国際活動委員会のQBS分科会でその普及の必要性、その方法等について検討する

必要がある。また現状での我が国の品質・技術と価格による選定(QCBS)、価格による選定(CBS)、QBSの混在した状況とFIDICのQBS絶対という姿勢に関して、AJCEとしてのスタンスを検討しておく必要がある。

Disaster Managementに関しては、我が国の状況を踏まえて、ガイドラインの作成に積極的に関与することが望ましい。

特集：FIDIC大会報告

Workshop 3 Sustainability and Climate Change ? FIDIC Strategy ワークショップ3 持続可能性と気候変動 - FIDIC 戦略

株式会社日水コン 東部下水道事業部長
政策委員会副委員長 国際活動委員会FP分科会 春 公 一 郎

日 時：2011年10月4日(火) 14:00 ~ 15:30

場 所：Congress Centre Davos, Room Seehorn

モデレータ：John Boyd(カナダ、前FIDIC会長)

講演者：Lena Wastfelt(スウェーデン、Swedish Association for Consultant Engineers)

Raoudra Jebari Larbi(チュニジア、Ministry of Equipment)

1. はじめに

持続可能性委員会(SDC)ならびに気候変動タスクフォース(CCTF)に関わるワークショップである。会場では長年の懸案であったプロジェクト・サステナビリティ・マネジメント・ガイドライン改版(PSM II)のドラフトが配付された。昨年のSDCで作ることが決まった「15ページのコンセプト」の案である。これについてボイド氏から説明があった後、2名の方から持続可能な建設に係るプレゼンテーションがあり、最後に再びボイド氏が登壇、CCTFによりまとめられたFIDICのポリシー・ステートメント案についての紹介と意見集約が為された。講演の概要は以下の通りである。

2. PSM II ガイドライン・ドラフトについて

【ジョン・ボイド】

2004年に発刊されたPSM Iには、プロジェクトの指標を明らかにするなどの有意義な特徴があったものの、複雑過ぎる、途上国寄り、評価システムの欠落、事例が少ないといった課題があった。

これを改善すべく2008年より作業に着手、まとめた案が配付した資料である。指標を、水、エネルギー、資源、

環境、健康・安全、人権の6つに括り、評価を容易にした。

様々な利害関係者との関係で発注者の意識は変わりつつあるし、我々の関わる期間も変わらねばならない。例えば、我々は設計するだけでなく、廃棄までのことを念頭において、別の場所で再利用する事なども考えていく必要がある。また、単に道路を新設するのではなく、より持続可能な交通手段を提案するという関わり方もあるはずだ。持続可能であることとはゼロ・インパクトということであり、我々にはこれを目指し、政府や規制官庁に働きかけるという新たな役割があろう。

PSM IIは複雑なプロセスとなりそうだが、配付したドラフトはとりあえず主要なコンセプトをまとめたという位置づけであり、まずは実務にその概念をフィードバックしてもらいたい。今後、マニュアルのガイドラインや事例など多くのドキュメントを追加作成していく予定である。

3. 如何にしてスマートシティを管理していくか

【リーナ・ワストフェルド】

我々は、資源量を超過した生活を送っている。EUでは、2020年までに域内の温室効果ガスを20%削減し、再生可能エネルギー比率を20%に高めるとともにエネルギー効率を20%高めることを決定し、さらには2050年までにCO₂排出量を30%削減することが提起されている。これは極めてチャレンジングな目標だが、果たしてこれで十分なのか。都市の拡大していくスピードは人口増加より大きく、都市におけるエネルギー利用形態を変えていくことが最重要課題である。都市計画並びに都

市開発は、環境的要素、社会的要素、経済的要素と相乗作用をもたらすものでなくてはならない。都市機能というものは、全体として包括的に考える必要がある。個々の建築物やインフラを環境に優しいものにするだけでなく、ソフト的な対策、例えば、働き方や法規制なども含めた包括的な計画手法が必要だ。そのためには、市民や公共機関との対話が必要となる。FIDICは多大な影響力を有しているのだから、持続可能な社会に向けた具体的なメッセージを発するべきである。

4. チュニジアの公共建築物におけるサステナブル・コンストラクション【ジェバリ・ラービ】

サステナブル・コンストラクションというコンセプトは1960年代末に生まれたもので、天然資源や地域の資源を使用することで、出来るだけ環境を尊重しながら建設を行うというものである。建設段階で環境影響を最小限に留めつつ、エネルギー消費量も抑制しなくてはならない。今や選択の余地はない。国内外の建築コンペでは持続可能性が業者選定の一要素となっている。チュニジア国内でも、大学やその学生寮、研究センターなどで、持続性に配慮した様々な建築物の実例が蓄積されつつある。

5. 気候変動に係るFIDICポリシー・ステートメント案について【ジョン・ボイド】

昨年 CCTF が設立されたが、その第一の目的は気候変動に係るFIDICのポリシーを策定することであった。これは、世界中をカバーするものなので、チュニジアとスウェーデンのように全く異なる国の状況や見通しを包含しなくてはならない。

本日紹介するステートメントのドラフトは、大きく2パートで構成されている。ひとつは我々コンサルティング・エンジニアとの関係性についての言及であり、もうひとつはFIDICが目指すべきポリシーである。

気候変動がコンサルタントにもたらす影響は大きく、降雨強度などの設計基準の変化に対応していかななくてはならないという側面(アダプテーション)と、気候変動をもたらす温室効果ガスを削減出来るような新たな設計手法を創出しなくてはならない側面(ミチゲーション)の両面がある。FIDICメンバーはこれにどう対応していくのかが問われている。

FIDICポリシーのパートは、次のような内容である。

FIDICはIPCCが提起している懸念に賛同する。

地球温暖化という現象が実際に一定のレベルで現出しており、かつその一部は不可逆的な状態にあることを認める。

気候変動の予測には不確かさが伴うため、コンサルタントには既往のデータや前提条件に対する継続的な研究努力が求められる。

気候変動がFIDICメンバーの仕事に与える影響は大きいことから、求められる慎重さや技術革新、リスクなどについて、顧客との契約書に盛り込むべきである。

政策や規制の策定過程において、政府との関わりを模索していく。

排出枠取引については時間がかかるので、早期のミチゲーションを実現するため、大規模な排出量違反者に対して規制を強化するなどの制度的対応を取ることを政府に勧奨する。

変わらなくてはならないことを明確にするため、気候変動に伴うコストの算出を奨励する。

我々は、計画から廃棄に至るプロジェクトのライフサイクル全般に渡って、低炭素社会の促進・実現に貢献していく。

6. おわりに

別途報告するように、SDCが機能停止状態にある中、とりあえずはPSM IIのコンセプト・ドキュメント案が公開された。現段階ではまさにコンセプトに過ぎず、その点ではPSM Iと大差がない。今後、具体的な手法を示す追加文書によって、内容の充実が図られていくことに期待したい。

FIDICのポリシー・ステートメントは、所要の修正後、ECに諮られることになるようだが、地球温暖化や気候変動を現実として認め、それに対してCEが積極的な取り組みを行っていくことを表明するものである。コンサルティング業務への負の影響を契約に反映すべきとするなど、業界の特性にも配慮した一歩踏み込んだ内容となっている。やや遅きに失した感否めないものの、FIDICのリーダーシップの確立に向けた方策として、一定の評価ができるものと言えよう。ECにおける議論を待ちたい。

特集：FIDIC大会報告

Workshop 4 FIDIC Contracts (Update on New Documents)
ワークショップ4 FIDIC 契約約款 (契約約款の更新状況)日本工営株式会社 契約管理室 室長
技術研修委員会副委員長 アジュディケーター委員会副委員長 林 幸伸

日 時：2011年10月4日(火) 14:00 ~ 15:30

場 所：Room Schwarzhorn

議 長：Philip Jenkinson, Atkins, UK

参加人数：約80名

1. プログラムの概要

FIDIC Contracts Committee(契約委員会)の議長である Philip Jenkinson がモデレーターを務めるFIDICの新しい契約約款をテーマとしたセッションであり、壇上には契約委員会の委員5名が登場した。冒頭に新しい契約書の説明が簡単に行われ、ワークショップの大半はFIDIC契約書に関わる会場からの要望(フィードバック)の聴取と質疑応答に費やされた。現在、契約委員会には契約分野別の11のタスクグループがあり、活発に活動を行っている。

2. FIDICの新しい契約約款

最新の契約約款や契約関連書籍の開発および発行の動向は以下の通りである。

- 1) Procurement Procedure Guide : コンサルタントと請負者の両方の調達手続きをカバーするベストプラクティスガイドブックであり256ページの大作。ダボス大会で刊行された。
- 2) DBO (2008 Gold Book) Contract Guide : PPPプロジェクトに利用できるゴールドブック(設計・施工・運転)

のガイドブック。今年に発行された。ゴールドブック自体は2008年に刊行されて間もないが、既に幾つかのプロジェクトで使用されている。

- 3) Construction Subcontract : レッドブック1999年版に対応する下請契約書。2009年に刊行された試用版に改良を加え第一版として今年刊行されたもの。
- 4) FIDIC主要契約約款1999年版の改訂作業 : 1999年に発行されたレッドブック、イエローブック、シルバークブック、グリーンブックの改訂作業が進められており、先ずイエローブック改訂版が間もなく刊行されるとのこと。
- 5) JV and Sub-Consultancy Agreement : 現在のコンサルJV契約書とサブコンサル契約書はその発刊から20年近く経っており、最新のホワイトブック2006年版(コンサルタント契約書)に対応させることで改訂を準備中。
- 6) 専門工事に用いる契約約款 : 2006年に発行された浚渫工事用の契約約款の改訂作業が国際浚渫業協会 IADC)との共同で進行中。トンネル工事用の新たな契約約款を国際トンネル協会(ITA)との共同で企画。また、既存インフラ施設の運転ならびに改修・拡張を対象とした新たな契約約款(ODB : Operate, Design and Build)の開発が着手された。



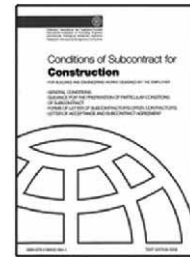
Procurement
Procedure Guide 2011
[AJCEコード AD-45]



DBO Contract Guide 2011
[AJCEコード CO-24-G]



DBO Gold Book 2008
[AJCEコード CO-24]



Construction Subcontract
[AJCEコード CO-31]

3. フィードバックと質疑応答

会場からの意見や質疑応答の主なものは以下の通りであった。

- 1) 契約に関わる教育の重要性 : アフリカからの参加者より、契約に関わる問題からプロジェクトがうまく進まない事例が多くあり、契約書の適切な選定、特記条件書の作成、運用について発注者、請負者、コンサルタント共に教育が必要であるとの発言があった。また、一般的に契約書はコンサルタントが作成するが、他案件からの不適切な模倣が契約書の品質低下の原因となっているとの指摘があった。契約委員会より、新たに発行された Procurement Procedure Guide は契約書選定の良い手引となる、とのコメントがなされた。
- 2) 発注者とエンジニア : アフリカの参加者より、発注者

がエンジニアを兼ねるプロジェクトが多い現状が報告された。契約委員会より、FIDIC 契約におけるエンジニアには独立性と公平性が担保されることが求められており、そのようなアレンジメントは好ましいものではないこと、またそれにより入札価格の上昇を招くであろうとのコメントがなされた。

- 3) デザインビルド契約 : 会場から、MDB(国際開発金融機関)が融資する ODA(政府開発援助)の現場においても土木工事にデザインビルドが適用されるケースが増えている。FIDIC MDB 版はレッドブックがベース(即ち、デザイン・ビッド・ビルド方式)となっているが、例えばイエローブックをベースとした MDB 版開発が望まれるとの要望が出された。契約委員会より、近々 MDB との会合が予定されているので話題としたい、とのコメントがなされた。

特集 : FIDIC 大会報告

Plenary Session Enhancing Organisations 全体会議 組織強化

日本工営株式会社 中央研究所 所長
田中 弘

日 時 : 2011 年 10 月 5 日(水) 8 : 45 - 10 : 15
場 所 : Room Davos 本会議場
議 長 : Gregs Thomopoulos, FIDIC President
報 告 者 : Javier Baldor, Executive VP, BST Global, USA
Yvette Ramos, CEO, Firstec, Switzerland
Paul Jowitt, Executive Director, SISTECH, UK
K. Jayakumar, Director General, CDC, India
参加人数 : 約 200 人(概略)

1. 本セッションのフォーカス

本セッションでは、世界でモバイル化が進む中、コンサルタント産業が自社の競争力を高め、かつパートナーと効果的に協働するために必要とする、新しい組織強化の提案(情報技術や人的資源の活用)及びコンサルタント産業に影響を与える重要な国際動向の事例紹介に焦点が当てられていた。



Plenary Session 発表の様様

2. 報告者のプレゼン概要

1) Baldor 氏は、FIDIC の戦略的パートナーで FIDIC2011 のスポンサー企業でもある ICT 企業の BST (Business Management Software for Engineering) 所属で、ICT が我々のビジネスに与える影響、特に、モバイル技術がもたらす事業利益に焦点をあてた組織強化論について言及した。今後のライフスタイルが Mobile と

Cloud computingへと変化するのに合わせて我々の事業や市場も変化する状況下では、革新的に発展するICTを活用した組織対応が必要との提案で、プレゼンの最後では、自分のタブレットPCを取り出しプロジェクターにつなげて、BSTが開発したMobile soft toolのデモを行った。やや自社製品の宣伝色が濃い報告であった。

2) Ramos 女史は、電子産業機器メーカー Firstec SA の社長秘書室の方で、FIDIC大会の女性スピーカーとして常連の一人であり、人的資源養成の戦略的マネジメント論を展開した。「財務力に基づいた既成の経済モデルから、特許開発・ブランド力・新製品開発等に結びつく知的人材資本への投資がこれからの組織強化の要である」という主張。これからの我々の市場環境はRAPLEX (Rapidly+Complex)であり、 $E=MC^2$ (Efficiency = Motivation × Communication × Competence)が Professional successの新しい経済公式であるとの造語フレーズにインパクトを覚えたが、話題自体はMBA分野で好まれそうな概念的・抽象的な内容で終始していた。

3) Jowitt氏はSISTECH(The Scottish Institute of Sustainable Technology)の重役を務めるかわら、Heriot Watt Universityの教授でもある水関連分野の専門家である。国連のMDGs (Millennium Development Goals)に沿った貧困解消に向けての水関連インフラ

整備の動向と、ローカル(主としてアフリカ)の人材育成論が展開された。これまでの途上国でのインフラ整備に関わる問題点(資金の無駄使いや既往インフラ施設のリハビリ問題)を踏まえた上で、現地の人材を活用したSMEs (Small and medium enterprises)の養成を考慮した社会インフラ整備の事例や若手技術者の育成について報告された。

4) Jayakumar氏は、インド科学産業研究省の役人で、成熟度の低い組織に活力のある専門家風土を養成するために、個人のキャリアパスや資格証明情報等を統合させた人材知識データベースのシステム論について紹介がなされた。Jayakumar氏の場合は細かいシステムフロー図のスライドが多く、プレゼン内容が具体的に過ぎたためにかえってインパクトは少なかった。

3. 所感

人的資本が第一という基本姿勢は本邦コンサルタントも同様であり、今さら言及されずとも社員育成施策に力を入れている本邦企業は多い。アングロサクソン系思考回路の面白いところは、人的資本への投資にしても、途上国の社会インフラ整備方針にしても、ビジネス収益とその投資効果について包括的に論じて、納得のいく合理的なシステム論が構築できてから行動を起こすという性向であろうか？

特集：FIDIC大会報告

Seminar 4 Structuring Cooperation セミナー4 協力関係の構築

日本工営株式会社 グローバル戦略室 室長代理
露崎高康

日 時：2011年10月5日(水) 10:45 - 12:15
議 長：Pablo Bueno, FIDIC EC
報 告 者：Hugh Blackwood, Senior Vice-President,
International Operations, URS Scott Wilson
William O Ogola, Ministry of Regional
Development, Kenya
Pepe Pachon, Director for Africa and Asia,
TYPASA Group

参加人数：40名程度

1. プログラムの概要

開発案件の大型化ならびに複雑化に伴い、コンサル企業が単独で開発案件に取り組むことに限界が生じており、その会社の国籍に留まらない多国籍の協力者を必要とする事例が増加している。また、コンサルタント業務単体での経営に限界を感じ会社としての規模拡大ならびにプロジェクトの全サイクルへの関与を目指し、

エンジニアリングコンストラクターを目指すコンサルタント会社も登場してきている。本プログラムでは複数の企業体による協力関係を構築することにその解を求める2つの異なった角度からの事例を紹介している。

2. URS Scott Wilson による報告

Scott Wilson(年間売上高5.4億ドル、2009年)による報告は、日本のコンサルタント会社としても考えさせられる報告であった。リーマンショックにより発生した経営上のリスク、課題に対処すべく最終的に選択した方策が、アメリカの大手 Engineering Constructor である URS に自らを吸収させることであった。プレゼンでは、なぜそのような結論に至ったかの意思決定プロセスを紹介している。

タイトルは、“直面する圧力と長期的トレンド”としている。直面する圧力としてリーマンショック後のデフレ、公共事業費の削減、英国国内事業の減速、産業の多国籍化、開発案件の大型化と複雑化、利益率の低下、キャッシュフロー維持の困難さを挙げている。一方、長期的トレンドとして案件の大型化と複雑化の継続、民間資金投資の増加と資本参加圧力、政府行政サービスのアウトソーシング促進、顧客のグローバル化、即応態勢の強化などを列挙した。

これら長期トレンドに対処する際に3つのオプションを検討した。

- (1) コンサルタントとして独立性を保持したビジネスモデルを継続する。
- (2) 世界中からアライアンス先を模索し規模の拡大を目指す。
- (3) 主体性を保持しつつ Fully combined and integrated

company”を目指し親会社を選択する。

Scott Wilson は(3)を選択し米国大手の買い手を探した結果、年間売上92億ドルのURSを親会社として選択し吸収合併への道を選んだ。その結果、経営基盤の規模拡大と安定を手に入れ、SWの経営構造の継続性を担保し、従業員に安心感を与えたと分析している。

3. ケニア政府ならびに TYPISA による報告

TYPISA による報告は、ケニアにおける多目的ダム開発推進に関連して、地元ケニアを含む複数の国籍のコンサル、多種エンジニアリングチームにより実施をしている事例が紹介された。本事例は、NANDI というダム建設を中心に、水力発電、灌漑、上水供給、内水面漁業、観光開発という多目的事業を推進すべく、スペインのコンサルタント企業である TYPISA を中心とした多国籍企業軍を組成、多種のエンジニア、エキスパートを組織化する試みについて述べている。

案件の大型化、クロスボーダー化、プログラム化に対応するに際し、最適な人材を自社にこだわらず広く求め且つ顧客に極めて近い場所にてサービスを行うことを最優先すべきとしている。

4. 所感

このところ有力コンサルタント会社が大手EC会社を買われるケースが増加している。米国のPBIは英国のBalfer Bettyに買収され、英国のHalcrow社は米国のCH2MHILL社に買収された。CH2MHILLは当初Scott Wilsonを買収すべく動いたとの報もある。日本のコンサルが日本のODA事業に忙殺されている間に世界では確実にパラダイムシフトが進行しているとの実感を得た。

特集：FIDIC大会報告

Seminar 5 Sustainable Engineering and Exporting Services
セミナー5 持続的エンジニアリングとサービス輸出株式会社オリエンタルコンサルタンツ 理事
会員委員会 FIDIC 理事会準備委員会 藤岡和久

日 時：2011年10月5日(水) 10:45 ~ 12:15
場 所：Room Seehorn
議 長：Bisher Jardaneh, Jordan
講 演 者：Andreas Wiese(Lahmeyer International GmbH,
Germany), Kunle Adebajo (Arup Nigeria,
Nigeria), Dempsey Naidoo(P D Naidoo &
Associates, South Africa), Gavin English
(IMC Worldwide Ltd. U.K.)

参加人数：約50人

1. プログラムの概要

議長 Jardaneh 氏から、挨拶と共に本プログラムの趣旨説明が述べられた。

“ Sustainable ”は、近年の開発プロジェクトにおけるキーワードであることは言うまでもない。FIDICもその活動を通じて、持続性を持った開発と問題解決のためにはエンジニアの役割が重要であることを長年に亘り強調してきている。

今回のFIDICカンファレンスは、当初アフリカのチュニジアで開催する予定であったため、本プログラムにおいても、欧州の大手コンサルタント企業によるアフリカにおける活動の紹介事例が、Andreas Wiese (Lahmeyer International GmbH, Germany) 及び Kunle Adebajo (Arup Nigeria, Nigeria) からあった。

特にLahmeyerグループではこの5年間、スーダンにおける事業額が本国ドイツより多いのが特筆。

Kunle Adebajo (Arup Nigeria, Nigeria) は Andreas Wiese (Lahmeyer) 氏がドイツの国際企業という立場からの発表であったのに対し、英国 Arup の現地法人としてローカル側からの発言内容であった点が内容にも反映されている。即ち、本社とプロジェクトを共同実施するにあたり、様々な問題が多くあることを強調した点で



ある。それらは実施能力不足等のコンサルタント側だけの問題だけではなく、発注能力不足やコラプション等発注者側の問題でもあり、その克服がSustainabilityを確保することに繋がるという主旨であった。

Dempsey Naidoo (P D Naidoo & Associates, South Africa)からは、アフリカ大陸国全土の状況説明が述べられた。P D Naidoo & Associates は、南アフリカで実施された人材育成業務をモデルとして、アフリカ各国への人材育成プログラムの普及に努めているとのことであった。

Gavin English (IMC Worldwide Ltd. U.K.)の発表では、近年世界規模でおきている人口の都市集中と自然災害の発生が被害を更に増大させている現状にスポットが当てられた。都市に流入する貧困層は劣悪な居住環境に集中する傾向があり、災害による被害はそのようなインフラの整備が遅れているところに顕著に表れる。Sustainableな開発を目指すには、この状況に適合した地元との強調が必要であるという発言であった。

2. 所感

耳慣れたテーマであったにも係わらず、各発表者の焦点が重ならず然もプレゼンターが慣れていたため、各発表とも非常に興味を持って聞けた。

特集：FIDIC大会報告

Seminar 6 What Does the Future Look Like?
セミナー6 どんな未来になるのか？日本工営株式会社 中央研究所 研究員
森原百合

日 時：2011年10月5日(水) 10:45 ~ 12:15

場 所：Room Schwarzhorn

議 長：Patrick Batumbya (Uganda)

報告者：François Swart (South Africa), Prashant Kapila
(India), Ibikunle Ogunbayo(Nigeria), Susie
Grynol(Canada) Kaj Möller(Sweden), Megan
Motto(Australia)

参加者：約80名

1. プログラムの概要

6人の報告者が、未来のコンサルタントのあり方について、見解を思い思いに語った。うち2人の女性報告者(写真参照)は演台から完全に離れスクリーン前面に出て話すという、力強いプレゼンテーションスタイルで聴衆を魅せた。

2. 各報告者の報告内容

・ François Swart 氏

Bigen Africaの前CEOである氏は、今後変わりゆく要求に答えていくために必要な視点として、市場ニーズの把握、自らの方向性の明確化、自らの差別化、優秀な上司・部下を得ること、発注者に対する適切な態度、技術以外の分野への理解の6つを提示した。

・ Prashant Kapila 氏

ICT社長である氏は、コンサルティングエンジニアリング企業として適切な技術適用・人材配置・コンサルティングサービスを行うこと、価値ある貢献をしていくうえでは教育・訓練による現地における人材開発や良好な人間関係を構築することが必須であると主張した。

・ Ibikunle Ogunbayo 氏

KOAConsultantsのCEOである氏は、よりシビアなビジネス感覚を持ち、これまでに手にした知識と経験を事業において最大限活かしていくことが必要と述べた。

・ Susie Grynol 氏

ACECの政策・広報副事業部長の氏は、スクリーン前



面でプレゼンしたうちの一人。カナダにおいて、いかに若者に業界への関心を抱かせ、優秀な人材を集めるかが課題となっている現状を述べた。解決にあたっては、若い世代にもっと裁量を与え、考え方の違いに理解を示すことが必要であると主張した。

・ Kaj Möller 氏

Sweco International ABの海外事業取締役である氏は、iPad等の最先端の情報ツールやソフトウェア等の活用が、付加価値を高める上で必要且つ新たなビジネスモデルの構築にもつながると述べた。

・ Megan Motto 氏

Consult Australia 代表の氏も、スクリーン前面で活発に動き回ってプレゼンを行った。発表スライドに文字はほとんど無く、Möller氏に引き続きiPad等のツールの活用や開かれた職場のあり方、在宅ワーク等も含めた新しい働き方等について、ほぼ写真と氏の語りのみで未来予想図を描いた。

3. 所感

報告の中には具体的で直裁的な表現も多く、会場の反応が年代によってばらついたことが印象的であった。質疑応答において、年長の男性が「年寄りを否定するのか」と報告者陣に食いついた一方で、抽象的な標題にも拘わらず各報告者が具体的に話を展開したことに対する謝辞も相次いだ。

日本においても学生の土木離れが指摘されて久しいが、企業・業界としての存続を考える上では、時代にあった働き方に柔軟に対応していくことが必要であると感じた。

特集：FIDIC大会報告

Seminar 7 Innovation Task Force (Report from ITF)
セミナー7 イノベーション作業部会からの報告

八千代エンジニアリング株式会社 国際事業本部 副本部長
 国際活動委員会CB分科会 武内正博

日 時：2011年10月5日(水) 10:45 - 12:15
 場 所：ダボス市内の Congress Center Davos、
 Pisch/Parsenn Room
 議 長：Michel Ray: France
 報 告 者：Michael Mabonga Pande: Uganda, Flemming
 Pedersen: Denmark

参加人数：約20名

1. セミナーの概要

本セミナーでは、以下の3項目について、プレゼンテーションが行われ、それぞれについて質疑応答が行われた。

- 1) イノベーションがコンサルティングエンジニア(CE)にとって一つの重要ファクターである理由
- 2) アフリカにおけるイノベーションの必要性
- 3) イノベーションとエンジニアリング - CEO(最高経営責任者)の視点から

2. “ Why innovation is a key factor for our profession ”
 by Mr. Michel Ray

何故、イノベーションが、CEという職業にとって、その地域(あるいは国)及び世界規模の変化をすばやく先取りするための一つの重要ファクターであるのか、についてのプレゼンテーションであった。

結論として、Michel Ray氏(フランス)は、以下の3点をあげている。

- (1) 明日の世界市場での競争への準備を行い、同時に競争力を維持すること。また、今日にでも、ダイナミック的を射たイノベーション戦略という重大な課題に取り組むこと。選択の余地はなく、それは必須事項である。さもなければ、他者に先を越されてしまうことになる。CE業界は、他のステークホルダーとともに、その有益な役割を果たさなければならない。
- (2) イノベーションに取り組む過程においては、多くの



機会と障害、それらに伴う、相応の脅威があるのが普通である。具体的で優先した共通のアクションを開発することは、当然である。

- (3) 地域、国及び国際レベルで、具体的なアクションを取るべきである。それには時間を要すが、それはCE業界の責務と思われる。
3. “ Innovation “ Expressed needs ” from Africa ”
 by Mr. Pande Michael Mabonga

アフリカにおけるイノベーションの必要性の表明についてのプレゼンテーションであった。まず、アフリカCE業界のイノベーションにおける課題について、Pande Michael Mabonga氏(ウガンダ)は、以下のように述べている。

- (1) 歴史上、アフリカ経済は、資源ベース型であり、知識ベース(集約)型を経験していない。現在でもなお、無尽蔵といわれる天然資源が、多くの政策決定者にとっては、経済成長や社会発展のための資源として、人的資源に比べて重要と考えられている。
- (2) その結果、アフリカ経済界の政策決定者が、人材開発を犠牲にして、彼らの開発への全面的な期待をこれらの非再生資源(天然資源)に託すのは当然のことである。
- (3) このような豊富な天然資源が、多くのアフリカ諸国におけるイノベーションの障害になってきた。すなわち、天然資源が、これらアフリカ諸国に対して、現代経済の重要な推進者である知識ベース型のCE業界の重

要性を認識し正しく評価できなくしているのである。

- (4) 上記のような政策決定者の視点にもかかわらず、CE 業界の組織に関するイノベーション意識は高い。しかしながら、文書化されておらず、また体系的でなく、多くは非公式で、場当たりのものである。
- (5) 世代間の技術移転がない。このことは、イノベーションの促進を可能にする、重要な知識が失われていることを意味している。

上記の課題に対処するための方策として、以下をあげている。

- (1) CE 企業の多くが生き残りをかけてイノベーションに焦点をあてていることから、FIDIC 会員協会(MA) を中心として、MA 会員企業内に、全ての技術と能力に関するデータベース構築及び新しい知識の体系化を行っていく。
- (2) CE 専門職のための技術の発展と向上を目指す。
- (3) 大手融資機関との関係を強化する。
- (4) その国(地域)の主要政策決定者との関係を強化する。

4. “ Innovation and Engineering : CEO point of view ” by Mr. Flemming Bligaard Pedersen

プレゼンターの Flemming 氏(デンマーク)は、Ramboll 社の CEO(最高経営責任者)であり、CEO の立場からのイノベーションとエンジニアリングについての発表を行った。Ramboll 社は、専門家約 10,000 人を擁し、23ヶ国に 200 以上の事務所をもつ、1945 年創業のデンマーク最大手のコンサルティング・エンジニア会社である。

本プレゼンで同氏は、「イノベーションは組織の戦略的牽引者である」と結論付けている。また、戦略的な展望としては、「地域社会(コミュニティ)に根を張るコンサル

ティング・エンジニア」を掲げている。また、同氏は、Ramboll 社が目指すイノベーションとして、次の 10 タイプのイノベーションを紹介している。

[Business]

- (1) Business model : いかにして企業は利益を上げるか
(2) Networking : 企業組織と価値連鎖

[Process]

- (3) Key processes : 価値を付加する独自に開発したプロセス
(4) Support process : 能力の結集

[Offering]

- (5) Product performance : 基本的特徴、性能、機能性
(6) Product system : 商品をとりにくく拡張システム
(7) Services : いかにして顧客にサービスを提供するか

[Delivery]

- (8) Channel : いかにして商品と顧客を結びつけるか
(9) Brand : いかにして顧客に商品の利点を伝えるか
(10) Customer experience : いかにして顧客に総合的な知識を与えるか

5. 所感

イノベーションという概念は、よく耳にはするが、電化製品などハード面という認識があり、実際に自分が関係する業務では、あまり意識したことはなかった。しかし、今回、FIDIC 大会のこのようなセミナーに参加してみて、イノベーションとは技術的な面だけでなく、自分が日常おかれている組織などソフト面すべてにおいて、適用すべきであるということ認識させてくれた。

一方で、FIDIC 大会初参加ということもあり、自由に意見が言えなかった自分が歯がゆく感じた。やはり、こういう国際会議に場馴れすることも重要であると痛感した次第である。

特集 : FIDIC 大会報告

Natural Disasters - Manageable or Measurable? 自然災害 - 管理可能か、もしくは予測可能か?

株式会社建設技術研究所 企画本部国際部長
国際活動委員会 FP 分科会 FIDIC 理事会準備委員会 遠山正人

日 時 : 2011 年 10 月 5 日(水) 13 : 15 - 14 : 00

場 所 : Congress Centre Davos, Room Davos

議長：Dennis Sheehan 氏(オーストラリア)

参加人数：約 400 名

1. はじめに

近年、世界中で自然災害が増えつつあるといわれる。その背景には、人口の増加や都市への集中、情報化社会の進展、そして気候変動の影響など様々な要因がある。特に、昨年暮れから今年初めにかけてオーストラリア東北部で大洪水が発生、2月22日にはニュージーランドのクライストチャーチで大地震が発生し、日本人を含む多く犠牲となった。そして、その被災者の救出が続いている中で発生したのが3月11日の東日本大震災である。

このセッションは、こうした自然災害が頻発する中で、今年発生した2つの災害の状況と技術的な課題・教訓を共有し、コンサルタントの果たすべき役割について確認することを目的とした。発表者は次の2名である。

Adam Thornton 氏(Dunning Thornton Consultants Ltd.、ニュージーランド)

狩谷薫氏(株式会社東京設計事務所、日本)

2. 発表の概要

このセッションでは、まず Sheehan 議長から、昨年暮れからクイーンズランド州を中心とするオーストラリア北東部を襲った豪雨・洪水災害の状況と、復旧事業におけるコンサルタントの役割、契約制度の事例が紹介された。

インフラ関連では、道路約9,170km、州内の幹線鉄道の30%、34の橋梁と主要なカルパート、127の海洋航行補助施設が被災を受け、その復旧事業にコンサルタントが関わっている。州政府は、各地方に復旧事業のための事務所を設置し、プロジェクトの契約・管理や設計を実施している。

(1) Adam Thornton 氏の発表

今年2月22日にニュージーランドで発生したクライストチャーチ地震の規模と被害の概要とコンサルタントの役割が報告され、さらに Thornton 氏が委員長を務める Business Practices Committee(BPC)で検討されている FIDIC の災害管理ガイド(Disaster Management Guide)について紹介された。

クライストチャーチ地震では、死者180人、全壊家屋



(左から)Dennis Sheehan 氏(議長)、狩谷薫氏、Adam Thornton 氏

が12,000戸、1,000棟のビルの倒壊など甚大な被害が記録された。復旧に必要な費用は150～200億NS\$(0.9～1.2兆円)、GDPの8～10%と見積もられている。この地震のマグニチュードはM6.3で、M9.0を記録した東日本大震災と比べると1/800の規模であるが、最大加速度は1.9gと東日本大震災で地上部分で観測された最大加速度より4倍も大きな値となっている。また、ゆれ時間も12～20秒と短かった。

この地震は、2010年9月4日に近傍で発生したM7.1規模の地震の余震とも言われているが、震源がクライストチャーチ市街地に極めて近かったため、被害が甚大なものとなった。中でも被害の大きかったのは、落石・落盤による家屋被害、液状化、ビルの倒壊・半壊であった。発表では、被災箇所の写真が数多く紹介され、その凄まじさが伝わってきた。被害の大きさから、クライストチャーチ周辺の保険事業は一時的に滞ったままとなっており、クライストチャーチ以外の地震危険地域では保険料率が200～1,000%上昇するという事態が生じているそうである。

応急対応の段階では、市民防衛・危機管理省を総括とする災害査定事業においてコンサルタントが活躍しており、特に建築物の安全性の評価では、ボランティアのエンジニアも数多く活躍したことが紹介された。

最後に災害管理ガイドについて紹介された。このガイドは、FIDIC会員のみならず顧客や国や地方政府の危機管理担当部局に対して、災害発生後の適切な対応のために必要な事前の備えについて、具体の事例等を交えたアドバイスを提供することを目的とする。まだ検討の初期段階であり、今回は目次の大枠案が紹介されたにとどまった。

(2) 狩谷薫氏の発表

今年3月11日に発生した東日本大震災による被害の状況、地震・津波の影響により複合的に発生した原発事

故を含めて今回の巨大災害から得られた教訓、コンサルタントの役割など総合的な内容の発表であった。

まず、最初に大震災後に世界各国から寄せられた救援や様々な支援、ならびにFIDIC関係者から寄せられたお見舞い、激励に感謝が述べられた。地震と津波の規模、被害の状況の後に紹介された教訓では、過去の大規模な地震災害で得られた教訓が活かされ、橋梁や地下構造物等の耐震化が進み、被害は比較的小さく抑えられたこと、緊急地震警報にもとづく早期制御が機能し、鉄道システムの危険が回避されたこと、継続的な避難訓練・防災教育の効果で被災者は比較的少なくなったこと、国土交通省が制度化したTEC-FORCEや建設業を中心とする災害業務応援協定など、被災後の支援に関する事前の協定・制度が機能したことなどが紹介された。

一方で、電力供給・通信等ネットワーク関連施設の被害、液状化も含めた民間住宅地における耐震性に関わる問題の顕在化、公共輸送システムの停止に伴い発生した大量の帰宅困難者への対応、原発事故に起因する放射能問題での風評被害、原発停止に伴う

電力供給量の低下とサプライチェーンの寸断に伴う経済への影響の拡大、など、巨大災害が発生した場合に生じる様々な障害への対応などが今後の課題として協調された。

最後に、日本のエンジニアに対しては、今回の災害の情報を正確に記録し、得られた教訓を広く世界に発信し共有することが責務であることが述べられ、コンサルタントに対しては、世界の経済活動の持続性と人類の安全性の確保・維持を目的とし、経験と創造力を活かして、ハード的な対応とソフト的な対応をうまく組み合わせていくべきことが述べられた。

3. 感想等

個人的には非常に興味のあるセッションであったが、時間が45分と短かったことが残念である。今回発表された2つの災害以外にも洪水などの災害が頻発・巨大化しつつあり、より多くの災害での経験と教訓を共有することが望まれる。東日本大震災という史上稀に見る巨大災害・複合災害を経験した日本のコンサルタントとしての役割は重要であろう。

特集：FIDIC大会報告

Social Event 懇親行事

株式会社日水コン 東部水道事業部 東京水道部 担当課長
技術研修委員会 YP 分科会長 赤坂和俊

ここで、紹介する2011年FIDIC Davos大会のSocial Eventは以下のとおり。

今回は、いつものシティーツアーなどのオプションツアーはなく、宿泊ホテルから配られる周辺交通の無料チケットでDavos観光が行えた。Davosは図-1のとおり、

2,000mを越える山々で囲まれた街であり、ケーブルカーやロープウェイで山頂付近まで行くことができる。

また、Davos PlatzやDavos Dorfのように、スイスにはPlatz、Dorfという地名が多いが、それぞれ「広場」、「里」の意味である。

開催日	開催時間	催し	場所
10月2日(日)	19:00~21:30	ウェルカムレセプション	The restaurant Bolgen Plaza
10月3日(月)	9:00~10:00	オープニングセレモニー	Room Davos
10月4日(月)	19:00~21:30	AJCE懇親会	Extrabalad
10月5日(水)	19:00~22:00	Gala Dinner	Farbi Sporthalle

1. オープニングレセプション: 10/2(日) (図-1)

大会前夜の10月2日(日)に、Bolgen Plaza(図-1)において歓迎会が催された。会場はオープンでやや肌寒い感じだったが、少し遅れていくと既に会場は人で溢れかえていた。歓迎会はすでに始まっている雰囲気であったが開会の挨拶があったかは不明である。途中エンリコ氏(FIDIC 専務理事)の挨拶があったようだが、内容は聞き取れなかった。皆それぞれ久しぶりに会う人々と笑顔で会話を楽しんでいた。

2. AJCE 懇親会: 10/4(火) (図-1 会議場隣)

大会2日目の10月4日(火)の夜にAJCEの懇親会が開催された。日本ではお会いできない方々ばかり。日本から遠くスイス Davos で1年に一回の再会。FIDIC大会という出会いの場の不思議です。廣瀬会長のご挨拶で懇親会開始。34名が参加。奥様方もご参加頂き男所帯のAJCEにも花が添えられました。また、懇親会開催に山下事務局長と奥様のご尽力頂き、とても良い和やかな良い懇親会となりました。ありがとうございます。

3. Gala Dinner(Farbi Sporthalle (図-1))

大会最終日の10月5日(水)の夜(18 : 30 ~)は、おなじみの Gala Dinner。今年はいくまでもチュニジアンテイストな大会なので、最後までチュニジアンです。会場は大きな箱の中にデリバリー。外はスイスで中はチュニジ

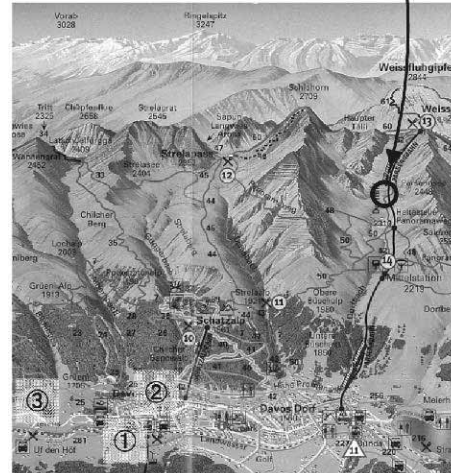


図 - 1 Dabos 市街地

ア、という一種独特な雰囲気の中、正装、民族衣装などさまざまな紳士淑女が集う場であり、それだけでも見物である。さて、今回の催しはどのようなものでしょうか。きれいなダンサーが3名、腰をくねらせセクシーに踊



廣瀬会長の挨拶



会長、副会長揃い踏みでパシャ



事務局長夫妻越しにパシャ



シブイ、男だけでパシャ



すごい笑顔の御仁が



お料理はこんな感じ

りながら会場を練り歩いておりました。

AJCEの面々はそれぞればらばらにテーブルを確保し、私は、少し疲れたため早々に退場し、酔い覚ましに会場からホテルまで歩くことにした。道すがら、見た幻

想的な風景を最後に紹介する。月がきれいな夜であった。

みなさまお疲れ様でした。



会場の風景



廣谷ご夫妻、竹村ご夫妻
宮本ご夫妻、山下ご夫妻



チーム建技



チーム狩谷さん
見事な発表お疲れ様でした。



チーム日本工営



緊張も見事な発表の今井さん(左)
お疲れ様でした。



酔ったか? 日水コン福島さん



きれいなダンサー



きれいなダンサー

4. 観光(おまけ)

個人的にケベックに続く「消火栓でひとこと 第二弾」
黄色顔に青シャツがダヴォス出身。かなり素敵なキャラ

です。灰色の地味な奴はバーゼル動物園。タコはライン
川沿いのフランス野郎です。



ポッツーン



見えてるぞ!



あっ!



近っ!



もーいーよ!(灰色)



ナイスカラー(赤色)

【参考】ケベック版は。黄色帽に赤シャツでお歯黒と中々キュート。



リラックス



変装失敗?



チビとノッポ

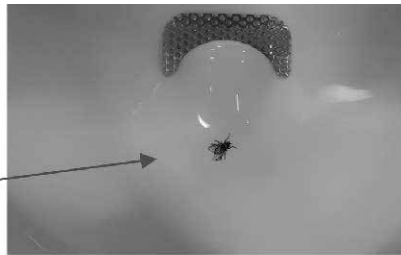
カラーの写真はAJCE ホームページ『世界のあちこちでつばやく!』をご覧ください

<http://www.ajce.or.jp/Murmur/murmur.html>

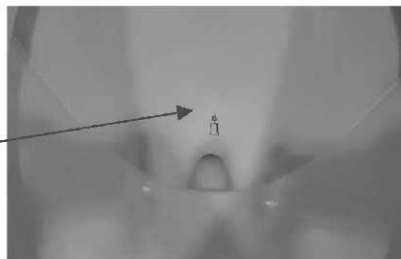
5. 観光(おまけ2)

もう一つ。テレビで見たことがあった便器にハエの絵が・・・男は狙いたくなるのです。そこに的があるから。

これで、清掃費用が大幅に削減できた実績をもつすぐれものです。



ダヴォス会場のトイレ
ハエを打ち落とす!



チューリッヒ空港のトイレ
ろうそくを消火!

特集：FIDIC大会報告

Presidents Meeting
会長会議日本工営株式会社 代表取締役社長
AJCE 会長 廣瀬典昭

日 時：2011年10月2日(日) 9:00 ~ 12:00
場 所：Davos Congress Centre, Davos, Switzerland

1. 会議の概要

会長会議は、FIDICの各会員協会 (Member Association) および地域連合体の会長・議長が出席して、大会の前日に開催された。

会議では、FIDICの年次活動報告、FIDIC VISION & MISSIONの説明、会費の改定にむけての提案、各地域連合体や関連組織の活動報告などがあり、その後自由討論を行った。

2. FIDIC VISION & MISSION

次期 FIDIC 会長の Geoff French 氏から、FIDIC VISION & MISSIONの改定の説明があった。2011年1月の理事会においてFIDICの今後の方向性を見直す必要性が認識され、ワーキンググループにおいてVision、Mission、Objectivesの検討がなされたものである。その検討結果や会長を含む関係者での協議の結果、現行のVision StatementやObjectivesの大幅な変更は必要ないが時代の趨勢にあわせて若干の手直しや追加をおこなうことになった。

Vision Statementは若干の追加的記述を入れて、

“ Enabling the development of a sustainable world as the recognised global voice for the consulting engineering industry ” とすることになった。

Mission Statementは変更なし

ObjectivesにはFIDICの最近の重要な活動を反映させて、FIDICの契約約款に関する活動、FIDICの収入の大きな部分を占めるようになった収益活動、Young Professionalsの活動を追加することになった。

3. 会費改定の提案

FIDIC財務担当のAdam Thornton氏から、現行会費の改定の必要性和、改定案の説明があった。これは昨年にも説明があったがより具体的な案として示されたも

ので、現行会費は、各MAが申告した会員数をもとに決められているが、会員の定義や各国協会の代表性、各国の経済力の反映の必要性などに課題があり、より公平で透明性の高い仕組みへの変更が必要ということで、モデル改定案の説明があった。昨年と同様、各国から様々な反論があり、会長もこれは難しい問題であることを認めて、今後さらに検討をすすめることになった。

4. 地域連合体と関連団体からの報告

FIDICの地域連合体であるASPAC(アジア大洋州地域協会会員連合)、GAMA(アフリカ地域協会会員連合)、ASMA(アラブ圏会員協会連合)および関連団体としてEFCA(ヨーロッパコンサルティングエンジニア協会連合)、FEPAC(中南米コンサルティングエンジニア協会連合)から、それぞれの活動報告があった。

参考 FIDIC VISION, MISSION and OBJECTIVES

1. Vision Statement

“ Enabling the development of a sustainable world as the recognised global voice for the consulting engineering industry

このVisionの2つの要素を表現するためFIDICの文書や書簡にタイトルとして使う場合には次の2つを場合によって使い分ける

FIDIC

International Federation of Consulting Engineers

Enabling the development of a sustainable world

FIDIC

International Federation of Consulting Engineers

The recognised global voice for the consulting engineering industry

2. Mission Statement

“ To work closely with our stakeholders to improve the business climate in which we operate and enable our

members to contribute to making the world a better place to live in, now and in the future. ”

3. Objectives

Objective 1

“ Be the recognized international authority on issues relating to engineering best practice and quality ”

Objective 2

“ Actively promote high standards of ethics and integrity among all stakeholders involved in development of infrastructure worldwide ”

Objective 3

“ Maintain and enhance FIDIC`s representation of the consulting engineering industry worldwide ”

Objective 4

“ Enhance the image of consulting engineering ”

Objective 5

“ Promote and assist the worldwide development of viable consulting engineering industry ”

Objective 6

“ Maintain the leading position of FIDIC`s Forms of Contract ”

Objective 7

“ Improve and develop FIDIC`s commercial activities ”

Objective 8

“ To promote and encourage the development of Young Professionals in the Consulting Industry ”

特集：FIDIC大会報告

Business Practice Committee (BPC) 業務実務委員会

株式会社東京設計事務所 取締役東京支社長
国際活動委員会FP分科会長 会員委員会 FIDIC 理事会準備委員会 狩谷 薫

日 時：2011年10月2日(日) 7:30 ~ 9:00

場 所：Room Sertig, Congress Centre Davos

委員長：Rick Prentice(カナダ)

参加者：委員長及び狩谷を含め10人

1. 委員会の目的

FIDICのBPCは、会員協会(MA)・企業が業務を遂行するにあたって必要と考えられるFIDICの支援を実施に移すために、必要となる各種のツールを開発・提供することを主たる目的として活動を行っている。委員会内での各種プロジェクトの進捗状況と10月4日(火)に予定されていたBPCワークショップの打合せを中心に会議が行われた。

2. 委員会の会議内容

ダボス大会での委員会は、10月2日(日)の朝7:30から大会の会場であるCongress Centre, DavosのSertig会議室で行われた。昨年のニューデリ大会以上に集まりが良く、7:45には委員長を含むBPCメンバー8人と、FIDIC委員会と調整を図るために参加することになった

ヨーロッパコンサルティングエンジニア協会連合(EFCA)のJan氏、及びFIDICのPractice ManagerのItalo氏が参集した。前回(8月17日)のTeleconferenceの議事録をもとに、プロジェクトの進捗状況、業務実務に関する新たなニーズ・アイデアに関する意見交換、2日後に予定されたワークショップの最終調整、新たなテーマ等に関し、以下のとおり打合せを行った。

- ・品質・技術による選定(QBS)ガイドは完成し、ダボス大会参加者に無料で配布する。その後はウェブ上で無料でダウンロードできるようにする。(ただし、今後印刷版は実費を頂く。10ユーロ。)コンサルタント選定ガイドはQBSガイドとの用語の整合、価格交渉の部分を加えて、改訂済。今回はコピーを配布。
- ・Guide To Practice (G2P)の第5章の改訂は現在進めているところである。
- ・Client AwardはQBSを進めるために、QBSの先進Clientに賞を贈るものであるが、2013年のバルセロナ記念大会から実施できるよう作業を進め、理事会との

調整を図る予定としている。

- ・ Disaster Management ガイドに関しては、目的は理事会で承認され、タスクフォースを創設予定。今のところ、ニュージーランド、日本、インド等からの参加が考えられているが、最終的にはダボス大会後に設置の予定である。今回は Disaster に関するセッションがあり、そこで Adam が簡単に説明をする。
- ・ Business Cycle におけるコンサルタントの業務確保に関しては、Andreas よりヨーロッパでの Private Investment を呼び込む取り組みの話があったが、詳細は今後検討する。
- ・ ワークショップは完成した QBS の説明を中心とするが、討論に関しては、5,6 のテーブルに分け、QBS 普及に関する 3 つの質問に関して行い、フィードバックをもらうこととした。



左から、Andrew、Adam、Andreas、委員長 Rick、Peter、Jan、Fatma、Samarjit、狩谷

- ・ FIDIC は WEB の改訂を行っている。原案は 11 月、最終的には来年の 3 月に変更予定。多くの文書を作成している BPC として意見をまとめる必要があり、次回の電話会議で議論することとなった。

特集：FIDIC 大会報告

Sustainable Development Committee(SDC)Meeting 持続可能な
開発に関する委員会
Climate Change Task Force(CCTF)Meeting 気候変動タスクフォース

株式会社日水コン 東部下水道事業部長
政策委員会副委員長 国際活動委員会 FP 分科会 春 公 一 郎

日 時：2011 年 10 月 5 日(水) 10：30 ~ 11：30
場 所：Congress Centre Davos, Room Forum
議 長：John Boyd(カナダ、前 FIDIC 会長)
参加者：Lim Peng Hong(シンガポール協会会長)、
Fakhreddine Mrabet(チュニジア)、
Jonathan Cartledge(オーストラリア)、
Ioana Dragan(ルーマニア)、春 公 一 郎(日)

1. はじめに

今回、SDC は開催されなかった。一方、藤本委員に成り代わり CCTF に出席して欲しい旨の要請があったため、参加することとなった。SDC についても情報を得たので、併せて概要を報告する。

2. SDC について

- ・ SDC は、議長を始め忙しく、PSM II のドラフトに精力を使い果たしてしまったため、実質的に機能停止状態である(事実、Wallace 議長や Putte 氏を含め、SDC

主要メンバーは誰一人大会に参加していない)。

- ・ 今後、議長、委員含め、全面的に改組していく。
- ・ PSM II に関しては、昨年議論された「15 ページのコンセプト」のドラフトを今大会のワークショップにて提示した。来年には刊行する見込。また、今後、マニュアル的ガイドラインや事例など多くのドキュメントを作成し、徐々に刊行していく予定。

3. CCTF について

【ポリシーステートメント案について】

- ・ 今後、修正を経て EC に諮る。我々の役目はステートメント案を作成することまでである。
- ・ 排出枠取引では排出減を達成することはできないという事実を落とさずに、多くの MA に受け入れられやすい内容とすべく、豪州委員がワーディングの修正案を作成する。

【PSM IIについて】

- ・説得力を持たせるためには、具体的な事例の収集・提示が不可欠。

【今後の活動について】

- ・気候変動がコンサルティング業務にどのように影響しているのかを示すような事例を収集し始める。取り急ぎ、チュニジアにおける上水への影響に係る事例や、シンガポールにおける下水処理水の間接的飲用利用に関する経緯を、各国委員が整理する。
- ・持続性アセスメントを促進する案について、ルーマニア委員が概要を作成、皆で議論することとする。

- ・気候変動の話はつまるところ持続可能な開発の問題である。SDを前面に押し出すのがよい。
- ・TFの活動を活発化させるためにFIDICのウェブサイトを活用する方法について、委員長が検討する。
- ・YPから気候変動に関連する記事を出させ、優秀作を表彰するのモ一案。
- ・その他、委員長の活動方針私案：ベスト・プラクティス・リコメンデーション、各国政策の雛形、エンジニアリング上の課題リスト、プライオリティ・ベンチマーク、コンサルタントのTo Doリスト

特集：FIDIC大会報告

Integrity Management Committee (IMC) Meeting
公正管理委員会

株式会社日水コン 執行役員 事業統括本部副本部長
AJCE 理事 国際活動委員会委員長 蔵重俊夫

日 時：2011年10月2日(日) 8:30 ~ 12:00
場 所：DAVOS CONFERENCE CENTER @Seahorse
議事進行：Jorge Paddila(Mexico),
出 席：John Ritchie(Canada), Richard Stamp(U.S.A),
Liu Luo Bing(China), Manoochehr Azizi(Iran),
Nadar Shokoufi(Iran), Mirodil Mirakhmedov
(Uzbekistan), Bayo Adeola(Nigeria),
Tosho Kurashige(Japan),
Daisuke Hukushima(Japan)

Jorge Paddila より当日の議題やコメント

これまでのISMの活動が現実的でなかった面を踏まえ、ISOアンダーで実施しうるFIMS(FIDIC GUIDELINE FOR INTEGRITY MANAGEMENT)を開発し、いくつかの企業で実際に試験導入(パイロット・プログラム)してきた結果を議論したい。「FIDIC GUIDELINE FOR INTEGRITY MANAGEMENT IN THE CONSULTING INDUSTRY(1st EDITION 2011)」(印刷版が無料配布された)には、Integrity Managementの主たる方向性が記述されている。これをいかに日常活動、通常業務に適用するかが重要である。そしてそれは大企業から個

人コンサルまで適用されうるような、柔軟性に富み、企業規模に囚われない解決策であるべきである。汚職や賄賂の潜在的リスクをマトリクス表にして示すのも良策である。例えば案件種別、発注国、地域、業務分野、業務内容などで表を構成すると良い。また、FIDICとしてはコンプライアンスに関わる証明書などは発行していない。各国の機関等からのものを活用することとなる。

John Ritchie より事例紹介等

米国には多くのIntegrityやコンプライアンスに対するプログラムがある。英国には、「Bribery Act 2010」という非常に厳しい法令が本年になって出来上がった。わずかな金額のギフトなども処分の対象になるようである。また、欧米諸国のコンサルタントの多くは個人経営の小規模事務所である。その通常業務における公正なる手続きそのものが、汚職や贈賄を防ぐ手立てや、予防策を実行している証明となる。また昨今、Agent契約の問題も起きている。ADBやWBでは、営業代理店の契約額をコストプロポーザルに乗せる場合は、その様に書面発行することをもとめられている。一種の必要悪のようになっているが、1カ国で1社の営業代理店活動のようなビジネスの常識

の範囲内ならまだしも、複数企業の代理店契約を同時にするような者もいる。個人的には、契約成立ベースの成功報酬契約、としてその存在を認めるべきである。

Shokoufi より、ATEC 社(イラン)のパイロット・プログラム報告

イランでは30人以下の設計事務所が90%以上である。小さいうちはその創業者精神や方針が浸透しやすくコントロールしやすいが、企業が大きくなると、コントロールしにくくなる。その場合、Integrity Management そのものを仕事の一部とし、その担当職を置いて実施し、それを徹底的に監理監督する必要がある。現時点で、FIMSにもとづくマニュアルを会議の席上で紹介された

が、現時点では、まだまだ概念的な整理に留まっており、より実務的なものにブラッシュアップする余地も大きいとの意見が出された。

Bayo より現状報告

ナイジェリアでは、汚職はすでに貧困問題ではなくなっている。競争性の無いところに起きる問題であり、富めるものはますます富んでいく世界になっている。

今後の取り組み

Richard Stamp より、Skypeなどを通して、2ヶ月に一度くらいのペースで継続的に活動をし、各国、各社の状況をもう少し詳しく議論したい旨の提案がなされた。実施については、今後、調整することとなった。

特集：FIDIC大会報告

Capacity Building Committee (CBC) Meeting 能力開発委員会

八千代エンジニアリング株式会社 国際事業本部 副本部長
国際活動委員会CB分科会 武内正博

日 時：2011年10月2日(日) 9:30 ~ 12:30
場 所：ダボス市内のCongress Center Davos、Room Fluela
出席者：<委員長> H. Therkelsen: Denmark、
<委員> J. Haddad: Iran、D. Kell: Australia、
G. Pirie: South Africa、E. Mushi: Tanzania、
F. Fongoqa: South Africa、武内正博(オブザーバー)、山下佳彦(桜井委員代理)、
<FIDIC事務局> S. Fossati、I. Goyzueta、
F. Baillon

FIDIC2011ダボス大会において、CBCが開催された。同委員会では、以下の8項目について討議が行われた。

1. 2010年大会のミニッツと取るべきアクションの確認
予定された全てのアクションは、2001年のCB文書の改訂/更新以外は処理された。実践ガイド(Guide to Practice: G2P)に関するCBCの役割と要求事項について、いくつかの不明確な点があった。この課題については、2011年 - 2012年の1年間で整理することになった。
2. CB調査(ミニ・ギャップ分析)の結果

20%の会員(19会員)から質問書に対する回答が事務局に寄せられた。回答数としては少ないので、大会期間中、参加者に質問書への回答を求めることにした。ミニ・ギャップ分析の結果は、大会中のワークショップで第一次分析結果として発表される。今後より多くの回答を集め、2011年12月下旬までにCBCによって分析結果をレポートとしてまとめる。

3. 2011年大会のCBワークショップのためのプログラム

ワークショップの3人のプレゼンターの発表内容が検討された。特にワークショップでの討議の核となる4つの質問についてレビューが行われた。全委員は、本ワークショップでCBCの将来活動に向けて、参加者の考えや提言に耳を傾ける必要がある。事務局から、FIDICの全コースプログラムについて、それをどのようにG2P及びCBCのよりFIDICの方針に基づいた活動に適合させるかについて、簡単な説明があった。

4. 提案されたメンタリング(新人教育)プログラム

今年3月、CBCのHenning委員長から、FIDIC会長と事務局長にメンタリング・プログラムの概念と構成につ



いての第1回草案が提出された。この議題は、現在、FIDIC理事会(EC)で討議中である。CBCの関与についての指導及び要求事項については、同理事会からの回答を待つことになる。

南アフリカ協会は、現在、メンターが指導して能力開発を行うプログラム(Mentorship Program)を採用している。メンタリングは、企業だけでなく、協会スタッフにも適用すべきである。

5. CB パンプ 2001 年版の改訂

委員会は、本パンフが有益であり、2011年9月～2012年9月の1年間で更新/改訂することで意見が一致した。事務局は、同パンフの事実部分の更新を優先したいと考えて、それを2011年12月までに、CBC委員長と南アフリカMAのGraham事務局長に提出することとした。Dick Kell委員からは、IFIは、以前ほど直接的な顧客としての影響力はもはや持っていないことを考慮して、IFI文書の更新を提案する予定である。

Graham氏とHenning委員長は、改訂CB文書2012年版に関する提案書をCBC全委員に2012年3月下旬に送付し、彼らのコメントと追加事項について、確認することになった。

6. 実践ガイド(Guide to Practice : G2P) CBCは何を求められているか?

CBC委員及び事務局長間の討議により、G2Pと関連するトレーニングの性格及び用途について、いくつかの不明確な点が明らかになった。

G2Pは、13章に分かれた一つのマニュアルになっており、一連のトレーニングセッションが様々な国で実施されてきた。このマニュアルの各章は、明らかに詳細事項の質に大きなバラツキがある。

トレーニングセッションは、多くの場合、同マニュアルの関連した章に従っている。同セッションは、当該国の受講者やトピックに合うように調整される。

委員会メンバーは、例えば、建設業者や顧客に対して、G2P拡大プログラムへの参加を促すことができれば、「良質な教育を受けた顧客は、より良い顧客である」という観点からコンサルティング・エンジニア業界にとって大きな利益となるという点で意見が一致した。

若手専門職プログラムは、G2Pをそのままの形で採用している。また、南アフリカ協会は、コンサルティング・エンジニアを教育する学校を運営している。

CBC委員は、企業のみならず、協会運営にもCBが必要であることを明記すべきである。「知識は力」という時代は終わりを告げた。今や「知識の共有が力」である。現代の電子情報手段は、また、私有財産としての知識を保護することを益々困難にしている。それゆえ、FIDIC加盟企業は、企業間での知識の共有を図るべきである。

理事会(EC)と事務局は、FIDICがCBCだけでなく、いくつかの委員会を必要としていることから、FIDIC内の全てのトレーニングに対する包括的責任を持つべきである。

CBC委員会は、G2Pに関して、CBCに何を期待しているかについて、ECとFIDIC事務局に指示をだしてもらうよう要請することを決定した。

7. CBCはビジョンをどのように推進していくか?

CBC委員会は、2010年のTORが、引き続きCBC活動の良きガイダンスであることを確認した。

2011年 - 2012年の活動予定は、以下のとおりである。

- 1) CB パンプ 2001 年版の更新/改訂(上記項目5のとおり)
- 2) 項目2に述べた調査結果の分析とまとめ
- 3) 顧客(及びコンサルティング・エンジニア以外のパートナー)によるコンサルティング・エンジニア企業への発注やコンサルタント選定に関し、改善頂くための計画を展開する

8. 新CBC委員について

桜井一氏から武内への委員交代が承認された。

また、ブラジルを南米の代表とすべきという点についても合意した。波及効果として、このことが同地域におけるプロフェッショナル間でのFIDIC活動への関心を促すことになるのではないか。